

平成13年度（2001年度）

講義要項

人間総合科学大学

人間科学部●人間科学科

建学の精神

人は、心と身体が相関しており、社会的生き物である。しかも有史以来、進化発展を続けている。

21世紀を力強く生きるためにには、新しい展望と視座に立って一人一人がしっかりした価値観を持ち、未来を切り拓く自己決定能力と勇気を持たなければならない。

ここに、人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、学際的に総合して科学的に探究する必要がある。

人間科学部を創設し、あらたな学問の追究と統合により、真に人間を理解し、自立と共生の心を育み、活力あふれる人材を育成する。

目 次

1. 本書の利用方法	7
2. 卒業要件	8
3. 開設科目一覧	9
4. 開講科目講義要項	10

教養科目

【現代社会の構造】

・ 日本の国際化（テキスト・スクーリング）	10
・ 現代社会と法（テキスト）	12
・ 現代社会と教育（テキスト）	14
・ 現代社会と生涯学習（テキスト）	16

【生活と福祉】

・ 家庭の経済（テキスト・スクーリング）	17
・ 地域の福祉（テキスト）	19
・ 住まいと環境（テキスト）	20

【人間の探究】

・ 中世の日本文学（テキスト・スクーリング）	21
・ 漢文学の世界（テキスト）	23
・ 人間観（テキスト）	25

【人間の健康】

・ 生活習慣と健康（テキスト）	27
-----------------	----

【人間と自然】

- ・物理学と宇宙（テキスト） 29
- ・生命の誕生（テキスト） 30
- ・自然との共存（テキスト） 31

【外国語】

- ・英語 I（テキスト・スクーリング） 32
- ・英語 II（テキスト・スクーリング） 34
- ・中国語 I（テキスト・スクーリング） 36
- ・中国語 II（テキスト・スクーリング） 38

【情報理論】

- ・くらしとマルチメディア I（スクーリング） 40
- ・くらしとマルチメディア II（スクーリング） 42

専門科目

【基礎科目（必修）】

- ・人間科学概論（テキスト・スクーリング） 44
- ・行動科学概論（テキスト・スクーリング） 46
- ・生命科学概論（テキスト・スクーリング） 48
- ・表現科学概論（テキスト・スクーリング） 50

【基幹科目】

- ・人間科学論（テキスト・スクーリング） 52
- ・人間関係論（テキスト・スクーリング） 54
- ・健康科学論（テキスト・スクーリング） 56
- ・比較文化論（テキスト・スクーリング） 58

【展開科目 I 群：こころ・精神の理解】

- ・発達心理学（テキスト） 60
- ・発達心理学（スクーリング） 61
- ・青年期心理学（テキスト） 63

・青年期心理学（スクーリング）	64
・産業心理学（テキスト）	66
・産業心理学（スクーリング）	68
・社会心理学（テキスト）	70
・社会心理学（スクーリング）	71
・ストレス（テキスト）	73
・中・高齢者の心とメンタルヘルス（テキスト）	74
・カウンセリング論（テキスト・スクーリング）	76
・カウンセリング実践（スクーリング）	78

【展開科目Ⅱ群：からだ・保健の理解】

・細胞と遺伝子（テキスト・スクーリング）	80
・身体の構造と機能（テキスト・スクーリング）	82
・栄養と代謝（テキスト・スクーリング）	84
・脳科学論（テキスト）	86
・脳科学論（スクーリング）	88
・自律神経生理学（テキスト）	90
・自律神経生理学（スクーリング）	92

【展開科目Ⅲ群：文化の理解】

・東洋文化論（テキスト）	94
・西洋文化論（テキスト）	96
・西洋文化論（スクーリング）	97
・日本文化論（テキスト）	98
・日本文化論（スクーリング）	100
・言語関係論（テキスト）	102
・文化人類学（テキスト）	103
・思想史（テキスト）	104

5. 2002年度以降の開講科目概要 107

・教養科目	109
・専門科目 展開科目Ⅰ群（こころ・精神の理解）	111

・専門科目 展開科目Ⅱ群（からだ・保健の理解）	112
・専門科目 展開科目Ⅲ群（文化の理解）	114
・卒業研究	115
6. 専任教員紹介	117

1. 本書の利用方法

本書の作成目的は、各学生が履修科目を登録する際に、自分が学びたい科目的選択をしやすく、また事前の予習等をする際の情報として提供することです。

よって、年度始めの履修科目を登録する前には、必ず本書を読み、履修登録が無駄にならないように科目を選択してください。

記載されている各項目の内容は、以下のとおりです。

1. 教育目標

当該科目的履修を通じて、皆さんに何を学んでもらうかが書かれています。

科目登録をしたら、この目標を念頭におきながら履修をすすめてください。

2. 科目の内容

当該科目はどのような内容のものなのか、また学習のすすめ方が書かれています。

テキスト履修かスクーリング履修かを含めて、よく内容を理解し科目を選択してください。

3. スクーリングのスケジュール

スクーリング履修のある科目について、授業のねらい、内容が書かれています。

スクーリングの受講の前に必ず再度読んでおいてください。

4. 評価基準

成績評価に関する基準が記載されています。

特にスクーリング履修では、講義中の聴講態度等も加味する場合があります。

5. 使用教材

テキスト履修・スクーリング履修で使用する教科書名および参考書名が書かれています。

6. 連絡事項

履修にあたって、担当教員から皆さんへの連絡事項が書かれています。

スクーリング履修の場合は、受講時に持参するものなども書かれていますので、必ず目をとおしてください。

2. 卒業要件

卒業に必要な単位数は124単位です。その内、スクーリングで修得しなければならない単位数は30単位です。

それらの単位数の修得分野を、本学では下表のように各分野毎に要件を満たす必要があります。

区分	分 野	卒業要件単位数		備 考
		合計	内スクーリング履修	
教養科目	現代社会の構造	4以上		各分野ごとに定められた単位数のほかに、全分野中から任意に選択し16単位を修得します。教養科目は合計32単位（うちスクーリング履修で4単位以上）が必要です。
	生活と福祉	4以上		
	人間の探究	4以上		
	人間の健康	2以上		
	人間と自然	2以上		
	外 国 語	—		
	情報理論	—		
《小 計》		32以上	4以上	
専門科目	基礎科目	16	8	4科目16単位必修
	基幹科目	8以上	4以上	2科目8単位選択必修
	《小 計》	24以上	12以上	
	展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解	10以上		各分野ごとに定められた単位数のほかに、全分野中から30単位を修得します。よって、展開科目は合計60単位（うちスクーリング履修で10単位以上）が必要です。
	展開科目Ⅱ群 からだ・保健の理解	10以上		
	展開科目Ⅲ群 文化の理解	10以上		
	《小 計》	60以上	10以上	
卒業研究		8	4	8単位必修
合 計		124以上	30以上	

※スクーリング履修の30単位のうち、基礎科目と基幹科目においては、10単位を上限として、メディア教材（CD-ROMおよびインターネット）で受講し、単位を修得することができます。

詳細は、「学習の手引き」の18頁を参照してください。

4年次への進級条件

本学では、休学・停学等のない限り3年次までは自動的に進級しますが、3年次から4年次に進級するためには、以下の条件を満たさなければなりません。

- ① 3年次終了時、専門科目基礎科目（4科目16単位）を修得していること
- ② 3年次終了時、合計90単位を修得していること

3. 開設科目一覧

授業科目名		単位数			開講年度	履修方法	授業科目名		単位数			開講年度	履修方法
		テキスト	スクリーリング	合計					テキスト	スクリーリング	合計		
教養科目	【現代社会の構造】						専門科目	産業心理学	1	1	2001年	S	
	日本の国際化	2	2	4	2000年	T・S		社会心理学	2	2	2001年	T	
	現代社会と法	4		4	2001年	T		社会心理学	1	1	2001年	S	
	現代社会と教育	4		4	2001年	T		ストレス	2	2	2001年	T	
	現代社会と生涯学習	4		4	2001年	T		中・高齢者の心とメンタルヘルス	2	2	2001年	T	
	【生活と福祉】							心身医学	2	2	2002年	T	
	家庭の経済	2	2	4	2000年	T・S		心身医学	1	1	2002年	S	
	地域の福祉	4		4	2000年	T		死生論	2	2	2002年	T	
	住まいと環境	4		4	2001年	T		精神分析（交流分析）	2	2	2002年	T	
	高齢化社会と福祉・医療	4		4	2002年	T		精神分析（交流分析）	1	1	2002年	S	
専門科目	【人間の探究】							カウンセリング論	2	2	2001年	T・S	
	中世の日本文学	2	2	4	2000年	T・S		カウンセリング実践	2	2	2001年	S	
	漢文学の世界	2		2	2001年	T		現代家族論	2	2	2002年	T	
	人間観	4		4	2001年	T		心の防衛機制と反応	2	2	2002年	T	
	日本語の諸相	4		4	2002年	T		生命倫理学	2	2	2002年	T	
	現代の英文学	2	2	4	2002年	T・S							
	【人間の健康】							【Ⅱ群：からだ・保健の理解】					
	生活習慣と健康	4		4	2001年	T		細胞と遺伝子	2	1	3	2001年	T・S
	スポーツと健康	2		2	2002年	T		身体の構造と機能	2	2	4	2001年	T・S
	公害と環境問題	4		4	2002年	T		栄養と代謝	2	1	3	2001年	T・S
基礎科目	【人間と自然】							脳科学論	2	2	2001年	T	
	物理学と宇宙	4		4	2001年	T		脳科学論	1	1	2001年	S	
	生命的誕生	2		2	2001年	T		病気の成り立ち	2	2	2002年	T	
	自然との共存	4		4	2001年	T		病気の成り立ち	1	1	2002年	S	
	【外国語】							臨床薬学	2	2	2002年	T	
	英語 I	2	1	3	2000年	T・S		保健学	2	2	2002年	T	
	英語 II	2	1	3	2001年	T・S		女性のからだと健康	2	2	2002年	T	
	中国語 I	2	1	3	2000年	T・S		高齢者のからだと健康	2	2	2002年	T	
	中国語 II	2	1	3	2001年	T・S		伝承医学	2	2	2002年	T	
	【情報理論】							自律神経生理学	2	2	2001年	T	
基幹科目	くらしとマルチメディア I		2	2	2000年	S		自律神経生理学	1	1	2001年	S	
	くらしとマルチメディア II		2	2	2001年	S		運動生理学	2	2	2002年	T	
	人間科学概論	(2)	(2)	(4)	2000年	T・S		運動生理学	1	1	2002年	S	
	行動科学概論	(2)	(2)	(4)	2000年	T・S		環境とホルモン	2	2	2002年	T	
	生命科学概論	(2)	(2)	(4)	2000年	T・S							
	表現科学概論	(2)	(2)	(4)	2000年	T・S		【Ⅲ群：文化の理解】					
	人間科学論	2	2	4	2001年	T・S		東洋文化論	2	2	2001年	T	
	人間関係論	2	2	4	2001年	T・S		西洋文化論	2	2	2001年	T	
	健康科学論	2	2	4	2001年	T・S		西洋文化論	1	1	2001年	S	
	比較文化論	2	2	4	2001年	T・S		日本文化論	2	2	2001年	T	
展開科目	【I群：こころ・精神の理解】							日本文化論	1	1	2001年	S	
	発達心理学	2		2	2001年	T		言語文化論	2	2	2002年	T・S	
	発達心理学		1	1	2001年	S		言語関係論	2	2	2001年	T	
	青年期心理学	2		2	2001年	T		国際関係論	2	2	2002年	T	
	青年期心理学		1	1	2001年	S		国際関係論	1	1	2002年	S	
	産業心理学	2		2	2001年	T		現代市場論	2	2	2002年	T	
								現代市場論	1	1	2002年	S	
卒研								文化人類学	4	4	2001年	T	
								思想史	2	2	2001年	T	
								比較芸術論	2	2	2002年	T	
								卒業研究	(4)	(4)	(8)	2003年	G

○数字は必修単位 T: テキスト履修 S: スクーリング履修 T・S: テキスト・スクーリング履修 G: 卒業研究

4. 開講科目講義要項

教養科目：現代社会の構造

科目名	日本の国際化 (1101T、1101S)	担当教員	山田 侑平 専任講師
単位数	4単位 (テキスト履修: 2単位、スクーリング履修: 2単位)		

■教育目標

日本の「国際化」とはなにか、われわれ一人ひとりにとって「国際化」とはなにか、それを自分自身の問題として考えてみます。国際社会における日本の役割、個人の段階における異質の文化とのつき合いなどを考えながら、翻って日本とはなにか、という点についても反省してみたいと思います。

■科目の内容

初めて外国の文化と出会い、日本と国際社会の関係について考えることを迫られた先人が残した以下の書物を読みます。杉田玄白「蘭学事始」、新井白石「西洋紀聞」、勝海舟「冰川清話」、福沢諭吉「福翁自伝」、中江兆民「三醉人経綸問答」。これらの書物に関する知識を得ることではなく、たとえ明確な答がみつかなくても、これらの書物そのものを自分自身で実際に読むことが教科の実質的内容となります。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1 日 目	国際社会との関わりを自分の問題として考える。各人に国際化や異文化との付き合いについて意見や体験を話してもらいます。	教科書の序章 各人の発言
2 日 目	教科書で取り上げた書物の一部を読み、原典読解に慣れるようにします。	教科書第1~5章およびプリント教材
3 日 目	スクーリングのまとめ	各人の意見を書いてもらいます。

■評価基準

テキスト履修：原典を読んだ感想を整理して書いてあれば合格。

スクリーリング履修：原典の読解、それぞれの意見のまとめ方などで評価。

■使用教材

教科書：日本の国際化テキストおよびプリント

参考書：教科書の各章に記載

■連絡事項

前記5点の書物のうち、興味のあるものの原典を入手して各自で読んで下さい。

教養科目：現代社会の構造

科目名 (1102T)	現代社会と法	担当教員	安部 清徳 講師
単位数	4単位 (テキスト履修:4単位)		

■教育目標

社会あるところに法があり、法は人間が人間のために自治的に規範し、人間によって自主的に遵守されなければならないものである。法は人間の幸福追求を基に、人間の生命の尊厳、自由な人格の発展、社会的公平の維持を必要とする。

現代社会の経済生活において、法学の基本的事項と最近の問題のなかから、つぎの法律の必要性を考える。

■科目の内容

第1章 法とはなにか

法は大別して、成文法と不文法に分かれ。成文法はさらに法律、政令、規則などに分かれ、不文法は、慣習法、条理法、判例法などに分かれ。そこで、本章では憲法に即しながら、成文法、不文法について学ぶ。

第2章 個人の自律と自己決定権

コンピュータの情報技術の進歩や、医療技術の発展など、社会の急激な変化に伴い、個人の自律にかかるプライバシーの権利や自己決定権といった新しい人権が主張されるようになった。本章では、この2つの権利について学ぶ。

第3章 結婚と家族の法

家族間のトラブルは、家族同士の話し合いや親族のとりなしで解決するものであるが、これによっても解決できない時、法による解決が必要となる。そこで本章では、解決の基準となる家族関係（結婚、離婚、親子、相続など）の法律について学ぶ。

第4章 犯罪と刑罰の法

刑法は、社会の平穏を守るとともに、犯罪者に刑罰を科し犯罪を抑止することで、国民の生命、自由、財産を保護する機能をもつ。本章では、刑法のこのような機能を前提にしながら、犯罪とはなにか、刑罰とはなにかなどを学ぶ。

第5章 刑事裁判と被疑者・被告人の権利

刑事裁判は、国民の生命、自由、財産を制限する結果をもたらすものだけに、制度や運用が公正であることが必要である。そのため刑事裁判に関しては、刑事訴訟法などが制度や運用について様々な規定を設けている。本章では、これら規定を理解しながら、刑事裁判のしくみや被疑者、被告人の権利などについて学ぶ。

第6章 不法行為と損害賠償

他人から害を加えられた場合、被害者は民法の規定（不法行為規定）や特別法の規定に従って、加害者に損害の賠償を求めることができる。本章では、この不法行為規定などについて学ぶ。

第7章 消費者問題と法

悪徳商法によって生じる消費者被害や製品の欠陥によって生じる消費者被害を救済するため、様々な消費者保護のための法制が設けられている。本章では、この消費者保護法制について学ぶ。

第8章 雇用関係の法

雇用関係については、労働基準法や労働組合法などの法律が、労働者を保護したり、労働者と使用者との関係を調整してトラブルの解決を図っている。本章ではこうした雇用関係の法律について学ぶ。

第9章 民事裁判と調停制度

私人間のトラブル、例えば金銭の貸し借りの争い、土地の境界線の紛争、離婚にかかる争いなどは、当事者間で解決できない時、民事裁判で解決されることになる。本章では、この民事裁判制度のしくみや諸原則、紛争当事者の話し合いを手助けする調停制度について学ぶ。

第10章 国民の政治参加と選挙

国民が国家意思の決定に参加する方法として、直接民主制と代表民主制がある。日本では、国政では代表民主制がとられているが、地方では直接民主制が法律によって認められている。本章では、このことを念頭にして、代表民主制、直接民主制の内容と、代表民主制の中心的な制度である選挙制度について学ぶ。

第11章 情報化社会と表現の自由

情報化社会では、情報の生産や利用が容易となった結果、市民は多様な表現行為ができるようになったが、その反面、プライバシーの侵害などの問題も発生している。本章では、多様な表現行為が可能になった情報化社会での「表現の自由」と、個人情報の保護などについて学ぶ。

第12章 公害と環境保護の法

現在、地球温暖化や大気汚染、海洋汚染、酸性雨などの環境問題は、地球規模で発生し、我々の健康や生活をおびやかしている。本章では、環境を保護する施策を推進して、我々の健康的な生活を確保しようとする環境保護のための法律について学ぶ。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：現代法学入門（畠博行編、有信堂高文社）、リーディングガイド

■連絡事項

特になし

教養科目：現代社会の構造

科目名	現代社会と教育 (1103T)	担当教員	米山 光儀 講師
単位数	4単位 (テキスト履修:4単位)		

■教育目標

教育は「子ども（人間）を善くしようとする働きかけ」と定義できるが、子ども（人間）の中には「善さ」を求めるメカニズムがあり、それに信頼を寄せて、その働きを助けていこうという「援助」教育の系譜をわが国の教育思想の中に探しながら、「教育」の原理的・歴史的理解を深め、現代社会における教育を再考することが、本テキストの目標である。

■科目の内容

第Ⅰ部では、教育をどのように理解するかという本書を貫く教育観について説明されている。これまでの教育は、「作る」教育と「助ける」教育に大別できるが、「助ける」教育＝「援助」教育が教育の本義から考えて、理にかなっていることを示し、わが国の「援助」教育の特徴が概括的に述べられる。第Ⅱ部は、それを受け、江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代（前期）、同（後期）各時期の「援助」教育の代表的な人物を3名ずつ取り上げ、その人たちが教育を「援助」としてとらえていたことを示した。第Ⅲ部では、わが国の「援助」教育の系譜を踏まえ、わが国には教育を「援助」と考える教育観が伝統として存在していたこと、しかしそこには問題点もあったことを示し、「援助」教育の理解の更なる深化を期待している。最終章では、「援助」教育の視点から、現代社会の教育問題の見直しをはかり、根本的なところからの改革が提言されている。

全体を通して、わが国の「援助」教育の系譜を探り、現代におけるその再生が模索されている。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：「援助」教育の系譜（渡辺弘編、松丸修三・米山光儀・森田希一著、川島書店）、リーディングガイド

■連絡事項

特になし

教養科目：現代社会の構造

科目名	現代社会と生涯学習 (1104T)	担当教員	永野 俊雄 講師
単位数	4単位 (テキスト履修:4単位)		

■教育目標

わが国はすでに高齢社会に突入し、多くの人々が生きがいを求めている。一方、知識や技術の革新のスピードが早く、一度身につけた知識・技術も老朽化しがちである。この科目では、このような時代における生涯学習の必要性や、一生涯を通した多様な学習の仕方を学ぶ。

■科目の内容

1. 生涯学習・社会教育の意義
2. 生涯学習社会における教育相互の連携と学習援助システム
3. 生涯学習社会における学校教育と社会教育
4. 生涯学習の内容・方法・形態
5. 生涯学習と企業・民間教育事業
6. 生涯学習推進センターと生涯学習関連施設
7. 学習情報提供と学習相談
8. 生涯学習推進と指導者
9. 生涯学習推進施策と社会教育行政
10. 諸外国の生涯学習

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：生涯学習概論（吉川弘編著、文教書院）

■連絡事項

特になし

教養科目：生活と福祉

科目名	家庭の経済 (1201T、1201S)	担当教員	山田 壽一 講師
単位数	4単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

高度に分業が進んだ現代社会では、我々は商品を市場より購入し経済生活を営んでいる。この経済システムにおける家計部門の位置付けについて検討していく。また経済学の基礎知識、特に消費論・生産論および交換論（価格決定）について検討を加えた後、家庭経済を取り巻く経済社会環境の変化などを考察していく。

■科目の内容

経済システムにおける家計部門の位置付けについて検討する際、経済現象を分析する視角を身につけておく必要がある。

そこで、テキスト履修においては、経済学の教科書を使用し基礎観念を理解し、スクーリング履修においては、その基礎の上に家計部門にかかる諸概念等について考察していく。

テキスト履修では、教科書の第2部ミクロ経済学のうち、第1章消費、第2章生産、第3章交換、第6章貨幣、第8章財政、第9章国際貿易、第11章賃金、第16章分配の望ましい状態、について、また第3部マクロ経済学のうち、第1章総論、第2章国民所得、第3章総消費支出、第4章総投資支出、第5章国民所得の決定、第8章景気変動、第9章経済成長、を履修する。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1 日 目	国民経済の中において家計部門のおかれている位置を十分認識するとともに、経済的位置、役割、責任等について考察していく。	国民経済の中の家計部門 消費者のための経済学 流通システム
2 日 目	現代の消費生活がいかにして達成されてきたのか、歴史的背景を通して考察するとともに消費者行動について考察していく。	経済成長と家庭生活 消費者行動
3 日 目	経済生活を通しての諸問題について考察していく。	消費者問題 消費者保護行政 消費者教育 高齢化社会 資産形成

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の时限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：新版 経済学（千種 義人著、同文館）

■連絡事項

スクーリング受講時には教科書を必ず持参すること。また、当日資料を配布する予定でいる。

教養科目：生活と福祉

科目名	地域の福祉 (1202T)	担当教員	桐木 逸朗 講師
単位数	4単位 (テキスト履修: 4単位)		

■教育目標

少子・高齢社会の進行と共に国民は社会的弱者でなくとも誰もが地域に根ざした「社会福祉」の対象者となったり、地域の住民として、地域で自主的に福祉関連活動の担い手となる可能性を持っている。そこで、「地域の福祉」が社会福祉行政の重要性を踏まえた上で、社会福祉行政にのみ依存することができない福祉ニーズの広がりとそれに対応する多様な地域の福祉の仕組みを理解してもらうことに力点が置かれている。

■科目の内容

わが国の社会福祉は、少子・高齢社会の進展で、従来、社会的弱者を対象としていた社会福祉のニーズが、ごく普通の平均的な国民（家庭・家族）の中にも広がりを見せている。このような社会福祉の変化に社会全体が効果的にフィットするためには、国及び地方自治体の社会福祉行政に依存するだけでなく、個人・家庭の自主的な備えを優先させ、それに家族・親族間及び近隣相互の助け合い、地域の社会福祉関連団体からのサポート並びに企業の福利厚生、労働組合の共済機能等を含む多様な福祉（セーフティ）ネットワークで支えられることが重要である。また住民のボランティア活動も重要な役割を持っている。こうした動向を踏まえて、「地域の福祉」の概念と「社会福祉」との関連、福祉サービスの仕組み、社会福祉事業の役割、ボランティアなどとの福祉の関連性などを学んでもらう。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：社会福祉士養成講座⑦ 地域福祉論（福祉士養成講座編集委員会著、中央法規）

■連絡事項

特になし

教養科目：生活と福祉

科目名	住まいと環境 (1203T)	担当教員	苅部 ひとみ 教授
単位数	4単位 (テキスト履修: 4単位)		

■教育目標

住まいと環境は、狭義には個人と住宅環境、広義には都市および地球環境と住宅間の相互関係に分けられよう。前者では、現在本邦でも注目を集めている化学物質過敏症が、後者ではゴミ処理問題や環境汚染物質が中心課題となろう。環境問題に関する歴史的背景を基にして、現実の諸問題を把握し、今後の対策を考え、地球にやさしい生活様式を身につけて頂きたい。

■科目の内容

- 全 体 わが国の環境問題および地球環境問題を把握する。次いで、地球環境の劣化という現象についての知識を身につける。さらに、環境と我々の生活との関わり合いについて理解を深め、最後に「持続可能な社会」を保持するために、我々に何が出来るかを考え、個人や集団として可能な取り組みを模索する。
- 第Ⅰ章 わが国と地球全体の環境問題の流れを把握する。
- 第Ⅱ章 地球環境の劣化について、総論と各論を展開し、原因、実情、対策について考える。
- 第Ⅲ章 個人の生活と環境との関わり合い、ついで、企業と環境との関わり合いについて理解を深める。さらに、環境汚染物質やゴミ処理問題などを通して、環境と健康についての正しい知識を身につける。
- 第Ⅳ章 地球にやさしく暮らすための取り組みを模索する。個人として、集団として自分に何が出来るかを考える。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：住まいと環境テキスト

参考書：テキストに記載されている参考文献（任意）

■連絡事項

特になし

教養科目：人間の探究

科目名	中世の日本文学 (1301T、1301S)	担当教員	佐伯 雅子 助教授
単位数	4単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

平安朝の代表的文学である『源氏物語』の物語世界を探求し、それがどのように享受・継承され、変容していったかを探る。次に中世に独自の展開を遂げた『平家物語』『承久記』『太平記』等の軍記物語を扱い、平安時代の文学と比較検討することによって、中世における展開と達成を学ぶ。

■科目の内容

中世の日本文学では、作品の講読を通して物語における中世を学ぶ。『平家物語』の講読を中心に平安時代の物語である『源氏物語』の世界がどのように変容していったかを考察することによって、王朝文化の再構築の方法を探り、文化の理解の入門とする。また、登場人物の人生と死の問題を取り上げ、「死」の問題を人間科学の立場から考察する。古典の講読が中心であるが、古典の文法事項よりも、作品世界の広がりが中心の課題である。序章、第Ⅰ章～第Ⅴ章は、『平家物語』の講読を人間科学の立場で考察する意義を探り、第Ⅶ章では『承久記』、第Ⅷ章では『太平記』を扱い、作品の読み解きを通して、人間と文化、人間と死の問題を考察する。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1 日 目	『平家物語』の俊寛の物語を講読する。作品の講読を通して、俊寛の心情の推移と癒しと死をとおして人間の本能と死の受容について扱い、中世における古典の受容の問題についても考察する。	『平家物語』講読 「赦文」「足摺」「有王」「僧都死去」 『平家物語』の古典受容
2 日 目	王朝文化の達成である『源氏物語』について学ぶ。具体的には「桐壺」巻を講読し、日本文化の源流である王朝文化について学ぶ。	『源氏物語』と紫式部 『源氏物語』「桐壺」巻講読
3 日 目	『太平記』を講読する。王朝文化との相違や中国文化とも比較検討する。	『太平記』講読

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出欠状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：中世の日本文学テキスト

参考書：各種古語辞典、各種国語便覧、「源氏物語」「桐壺」（角川文庫、岩波文庫等）

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。また、できれば、「源氏物語」「桐壺」巻（角川文庫、岩波文庫、その他インターネットでダウンロードしたものでも可）原文を持参することが望ましい。

教養科目：人間の探究

科目名	漢文学の世界 (1302T)	担当教員	佐伯 雅子 助教授
単位数	2単位 (テキスト履修:2単位)		

■教育目標

我が国に於いて漢文学とは、中国の古典という外国文学であると同時に、日本文学の一つのジャンルという側面を持つ。中国の古典は、書き下し文によって、日本語の体系の中に早くから組み込まれ、日本独自の展開を遂げて来た。漢文の訓読についての技法を初步から学び、訓読文、書き下し文についても学習する。また中国と日本の漢文作品を講読することによって、その思想的背景、日本に於ける異文化受容の方法について学ぶ。

■科目の内容

第一章では、漢籍の書誌的な基礎について扱う。漢文の扱い方の基礎を『三国志』を題材にし、漢籍の分類について学ぶ。第二章では、訓読についての技法を『論語』を題材にして学び、『孟子』とその展開から作品の読解に移行する。第三章では、漢詩(近体詩)の規則について学ぶ。第四章では、「血の涙」ということばの中国と日本との比較を扱う。第五章では、「螢の光」について、中国と日本の風土的な比較から、心の問題について扱う。第一章～第二章前半、第三章は主に技法的な問題を扱う。訓読や書き下し文の技術、或いは漢詩の規則などは、ワークブックのスタイルで書き込みながら学べるようにした。技術的な面は、訓読や書き下し文に慣れて、他の作品が扱えるようになるようにしたい。第二章後半、第四章～第五章は主に文学的な問題について扱う。漢文を読むことによって、古典の時代における外国文化の受容と展開と限界について考えてみたい。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：漢文学の世界テキスト

参考書：各種漢和辞典

■連絡事項

特になし

教養科目：人間の探究

科目名	人間観 (1303T)	担当教員	犬竹 正幸 講師
単位数	4単位 (テキスト履修: 4単位)		

■教育目標

環境問題、臓器移植問題、クローン人間問題等々、現代のわれわれが直面する諸問題は、これをつきつめて考えてゆくと「人間とは何か」という問題に行き着く。哲学はこの「人間とは何か」という問い合わせに二千年以上にわたり、独自の仕方で関わりつづけてきた。とりわけ、現代のわれわれの人間観の土台をなしている近代哲学は、近代自然科学の成立と密接に関わりながら、近代的自然観・社会観を構築し、また、これと相即的に近代的人間観を構築した。そこで、古代から近現代に至る哲学の大きな流れを学習することを通じて、現代のわれわれが「人間とは何か」という問題を考えるさいの基本的な視点を習得することが本講義のねらいである。

■科目の内容

序章を含め、全体は七つの章に分かれる。

- 序 章 「哲学と人間観」というテーマで、哲学が「人間とは何か」という問い合わせに関わる独自の視点を理解する。
- 第Ⅰ章 「古代ギリシャ哲学における人間観」というテーマで、古代ギリシャ人が自然や人間について展開した哲学的思索を学ぶ。
- 第Ⅱ章 「近代自然科学の成立」というテーマで、とくにガリレオに焦点をあてて、近代自然科学が自然についての新しい見方、近代的自然観の成立を不可欠の条件として成立した事態であることを理解する。
- 第Ⅲ章 「デカルトの哲学」というテーマで、近代哲学の祖といわれるデカルトの哲学を詳しく学ぶ。
- 第Ⅳ章 「人間における自然と近代的社会観」というテーマで、ホップズ、ロック、ヒュームといったイギリスの政治思想家の思想を学び、さらにルソーの社会思想を詳しく学ぶ。
- 第Ⅴ章 「人間理性の限界づけ」というテーマで、現代哲学にまで至る道を方向づけたカントの哲学を詳しく学ぶ。
- 第Ⅵ章 「現代の哲学における人間観」というテーマで、20世紀の哲学の基本動向を決定した哲学者のひとり、ハイデッガーの哲学を学び、併せて現代哲学の諸問題を概観する。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：人間観テキスト

参考書：テキストの各章ごとに基本的な文献を列挙してある。

■連絡事項

特になし

教養科目：人間の健康

科目名	生活習慣と健康 (1401T)	担当教員	浅沼 勝美 教授
単位数	4単位 (テキスト履修: 4単位)		

■教育目標

生活習慣は衣・食・住の生活や運動など日常の人間活動のなかでつくられ、これは人間の健康と深く結びついている。永年にわたる不適切な生活習慣が壮年期に影響を及ぼし、生活習慣病となって現れる。健康とは何か？を探り、近代化された社会の中で増加する肉体的障害と精神的障害に関わる事柄を、広角的な見地を基盤とした医学上の視点から検討する。人間の胎生期・新生児期・小児期・成人期・老年期にいたる各年齢層期の生活習慣に関わる問題点を探り、生活習慣と健康との関わりを解説する。

■科目的内容

WHOの健康の憲章に基づく概念のなかで、生活習慣と環境の健康に及ぼす問題点と人間の胎児から老人の疾病を理解する学習である。巻末には著者の秘蔵する疾病的カラー写真を掲載した。

第Ⅰ章は基本生活である衣食住の生活習慣と、合理化された近代の社会環境との健康の関わり、特に健康を阻害する習慣的環境因子を学ぶ。

第Ⅱ章は健康について。WHOの「心身の健康」、「社会的健康」を学び、疾病の構造や死因と健康に関わる環境因子など、生活習慣に関与する広義の阻害因子を探る。

第Ⅲ章は胎児期に関する問題で、生活習慣に関わる発育阻害因子を理解する為にその解剖と生理を学び、母体・胎児に及ぼす先天異常、周産期医学などを学ぶ。

第Ⅳ章は新生児期に関する問題で、特に成熟児と未熟児の諸機能の違いを学び、その原因と疾病が生活習慣と環境にどのような手で関わるのかを理解する。

第Ⅴ章は乳幼児・小児は母親からの免疫能を失い、学童期を迎えるが、免疫と抗体（予防）、発育期の栄養問題、神経的・精神的発達が生活習慣と関わる問題を探る。

第Ⅵ章は成人について。生活習慣病といわれる代謝障害の糖尿病、高脂血症、循環障害の高血圧、悪性腫瘍など、また生活習慣に関わる障害因子などを学ぶ。

第Ⅶ章は老年者について。生命体の老衰期である老人のエネルギー代謝率は低下し、細胞・組織の機能は低下する。しかし個人の環境や生活習慣によって著しい差があり、寿命の違いが出るのでこれを探る。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：生活習慣と健康テキスト

参考書：テキストの巻末に記載した参考図書

■連絡事項

テキスト課題に関する問い合わせは担当教官へ直接連絡すること。

教養科目：人間と自然

科目名	物理学と宇宙 (1501T)	担当教員	菰池 伸行 講師
単位数	4単位 (テキスト履修:4単位)		

■教育目標

物理学は、その誕生に天体现象の観測が大きな役割を果たしました。また、物理学の法則というものは、正しいというばかりでなく、普遍的なものでなければなりません。

物理学は、そのもっとも初步的な部分においても、宇宙と密接なつながりがある、ということを見ていきたい。

■科目の内容

物理学の基礎である力学の基本的な部分を、特に宇宙とのつながりを意識しつつ、以下のような内容を扱う。

- *重力
- *速度と距離、微分と積分
- *物理法則と対称性

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：ファインマン物理学「力学」(坪井忠二訳、岩波書店)、リーディングガイド

■連絡事項

特になし

教養科目：人間と自然

科目名	生命の誕生 (1502T)	担当教員	仁木 輝緒 講師
単位数	2単位 (テキスト履修：2単位)		

■教育目標

生命の誕生を考えた時、私たちは2つの事を想起します。1つは地球上にどのようにして生命が現れたのか。2つ目は私たちはどのようにしてヒトとして生まれてきたのか。

この科目では生命史と、私たちの誕生のプロセスを学びます。前編では偶然と必然を、後編では巧妙な発生のプロセスを理解したい。

■科目の内容

前編（第1章）では宇宙、地球、元素、分子の誕生。原始生命の誕生、そしてヒトの出現までを学びます。

後編（第2章）ではヒトの誕生を学びます。いつ精子形成、卵子形成が始まるのか。受精はいつどこで行われ、そして進行していくのか。体の器官形成はいつ行われるのか、そして最後に分娩の過程を学習します。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とします。

■使用教材

教科書：生命の誕生テキスト

■連絡事項

特になし

教養科目：人間と自然

科目名	自然との共存 (1503T)	担当教員	仁木 輝緒 講師
単位数	4単位 (テキスト履修:4単位)		

■教育目標

自然是生態系の絶妙なバランスの上に成り立ち、一人の勝利者の存在も許しません。現在、人類はこの生態系の頂点に立っているのですが、私たちは自分たちのこの立場をよく理解しているでしょうか。特にこの数世紀における人類の活動は、自然（生態系）に重大な影響を与えてきました。私たちは地球の生態系に対する責任を問われています。

日頃何気なく、便利に、安易に消費している物がどのような形で循環しているのかについて理解を深め、今何が出来るのか考えてみたい。21世紀においても、人類と自然との共存は可能なのか。ここでは、共存のための答えを示すことではなく、「共存」の方程式を解くためのポイントを学習する。

■科目の内容

自然との共存では次のことを学んでいきます。

1. 生物多様性と健全な生態系の持続
2. 生物多様性の危機の現状と要因
3. 生態系の健全性とその喪失
4. 絶滅過程の科学、個体群の衰退と絶滅

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とします。

■使用教材

教科書：新・生態学への招待 生物保全の生態学（鷲谷いづみ著、共立出版）

■連絡事項

特になし

■教養科目：外国語

科目名	英語 I (1601T、1601S)	担当教員	大東 俊一 専任講師
単位数	3単位（テキスト履修：2単位、スクーリング履修：1単位）		

■教育目標

情報化が進む現代社会においては、さまざまな分野で英語が必要とされている。多種多様な英文を読むことによって、英語の運用能力の基礎固めを行うと同時に、人間と社会に関する知見を深めていく。

■科目的内容

英語には日本語と異なる独特的論理性がある。まず最初に、英文の段落構成に沿った効果的な読み方を学習する。さらに一連の英文から情報を得るためにそれなりのスピードが必要である。速読のための技術を養成する。

次に、本学の教養科目、専門科目に関連した広い意味での「人間」をテーマにした英文を読んでいく。人間の心と身体、文化、歴史、現代社会の諸問題等々、多様な英文を読むことを通して、語彙力を強化し、正確に文意を汲みとる能力を養っていく。

スクーリングでは自宅学習において理解しにくい点を補うと同時に効果的に英文を読むためのテクニックを紹介する。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授業内容
1時限目～3時限目	効果的な英語学習法を考える	英語の学習環境に関する解説
4時限目～6時限目	リーディングの基礎力を養成する	リーディング演習
7時限目～8時限目	効果的なリーディングを考える	リーディング演習

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：出席状況と最終時限に実施する試験による総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：英語 I テキスト。スクーリングではプリントを配布して使用する。

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストと英和辞典を持参すること。

【教養科目】：外国語

科目名	英語Ⅱ (1602T、1602S)	担当教員	間嶋 理音 教授
単位数	3単位（テキスト履修：2単位、スクーリング履修：1単位）		

■教育目標

言語は人間同士が意思疎通を図る手段である。同時に、自己の意識を明晰にする道具でもある。我々の母国語とは異なる言語—「英語」を〈経験〉することで、日本語と英語の思考プロセスの違いを実感し、更には、その奥に流れる人類の普遍的真実に迫りたい。

■科目の内容

英語Ⅰで学んだ語学力を向上、拡充し、英文の読解能力を深めることを目的とする。
日本語とは異なる英語独自の文構造に着目し、文構造から英文を読み解く術を学ぶ。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	文構造に注意して、書かれた英文を正しく捉える方法を学ぶ	英文読解への構造分析
4時限目～6時限目	解析した英文を手がかりに、自分のことばで表現する	分析から翻訳へ
7時限目～8時限目	文章の背後に潜む筆者の意図を汲む解釈をめざす	英文の心を読む

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況とスクーリング試験の結果を総合評価し、60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：英語Ⅱ テキスト。必要に応じてプリントを配布。

■連絡事項

スクーリング履修時には、1)教科書、2)英和辞典、3)鉛筆、及び4)色鉛筆（黄色、水色、ピンクの3種類）を持参すること。

教養科目：外国語

科目名	中国語 I (1603T、1603S)	担当教員	石田 琢智 講師
単位数	3単位（テキスト履修：2単位、スクーリング履修：1単位）		

■教育目標

わが国にとって経済面においても政治面においても重要な隣国である中国の標準語、「中国語」の基礎を徹底して学習し、その基礎を固める事を目標とする。

■科目の内容

「中国語 I」では入門段階の基礎を徹底して学習する。従い「講読」「会話」「文法」「作文」等と分化せず、「総合中国語」として「読む」「書く」「聞く」「話す」「訳す」の各能力を基本文型を通じて総合的に学習する。

また、中国語も外国語である以上発音が重要である。従い、教科書とテープを有機的に活用することが不可欠である。

外国語の学習は積み上げ式なので、中国語 I の理解無くして2年次の中国語 II の理解はあり得ない。中国語 I で基礎を固める事が次のステップへの前提条件となる。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	発音を反復練習により身に付ける。発音記号のみならず、教科書の基本文型についても発音練習を行う。 また適時教科書内容の説明を行う。	母音、子音、声調とそれ等の変化 教科書各課の復習
4時限目～6時限目	教科書各課の復習を主に質問等を受けながら解説を行う。また、発音も適時指導する。更には練習問題を通じて理解を深めたい。	教科書各課の復習 練習問題
7時限目～8時限目	同上（反復練習）	同上

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の時間に実施する試験の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：中国語 I テキスト

参考書：中日辞書及び日中辞典

参考書はある程度中国語の概況がわかった時点で必要と感じたならば各人に合った物を。NHKのラジオ中国語講座を聴講するのが望ましい。

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

語学は反復練習が大切です。何回も声を出して読むことを忘れないでください。

【教養科目】：外国語

科目名	中国語Ⅱ (1604T、1604S)	担当教員	福木 滋久 講師
単位数	3単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

すでに中国語の基礎を習得した学生を対象に、これまで学んできたことをより確実なものとして定着させ、その上により高度な文法事項や語彙を補うことによって、更なる語学力の向上を目指す。中国語検定受験を推奨し、それを念頭においていた指導を行う。

■科目の内容

中国語Ⅰで身につけた知識や語学力を確実に定着させ、いろいろな場面で活用できる能力を養うことが本科目の目的である。そのため難解な文法や複雑な構文についての学習より、むしろ基礎の確認と応用を重んじ、語彙を増やし、正しい発音での確実な運用について学んでいく。レベルとしては、中国語検定準4級を確実にクリアし、4級に到達できる水準を目指すことになる。テキストもスクーリングもそういったコンセプトとしているが、各人はそれぞれ自分に合ったレベルを目標として頑張ってほしい。スクーリングにおいては、予習復習は必須である。復習については、二日目以降は前日の講義の復習となるが、第一日目は『中国語Ⅱ』の括弧穴埋め問題を『中国語Ⅰ』を参考にしながら必ずやっておくこと。予習はテキストを熟読したうえで疑問点を明らかにし、各課の練習問題について口頭で回答できるようにしておくことが最低限求められる。

■スクーリングのスケジュール

ね ら い ・ 授 業 内 容	
1時限目～3時限目	まずは受講者の語学力を把握するために簡単な小テストを行う。続いて第1課から順に、質問や疑問点を受け付け、考え方を解説。予習復習の状況を確認しながら、必要に応じて補足説明を加え、口頭練習と発音矯正、ヒアリングの練習を行う。

ね ら い ・ 授 業 内 容	
4時限目～6時限目	前の講義でやり残した課について引き続きこなした後、各課の文法事項に関連する新しい例文を紹介、受講者に発音や訳をしてもらい、それぞれの到達度を確認する。また理解をより深めるために、中国語検定の過去問題や補助教材を用いて応用力を養う。
7時限目～8時限目	教科書から離れた別の教材（事前に配布）を使用。「読む」「書く」「話す」「聴く」といった各能力の全般的な向上をはかり、スクーリングのまとめとする。最終時限に実施する試験の範囲は、テキスト及びプリント教材からとし、具体的には第一日目に指示する。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて評価。60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況や受講態度（予習復習の有無なども含む）及び最終時限に実施する試験の成績を総合的に評価。60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：中国語Ⅱテキスト。また、中国語Ⅰテキストも適宜参照する。またプリント教材を配布する。

■連絡事項

テキストを必ず持参のこと。中国語Ⅱテキストの括弧穴埋め問題や練習問題は事前にやっておくこと。中国語Ⅰテキストの語彙・文法を身につけた上で講義に臨むことが求められる。

教養科目：情報理論

科目名	くらしとマルチメディア I (1701S)	担当教員	加藤 あけみ 講師
単位数	2単位 (スクーリング履修: 2単位)		

■教育目標

デジタル情報機器や通信技術の飛躍的な向上により、コンピュータやインターネットが急速に普及し、マルチメディアが身近になってきた。このような現状に鑑み、マルチメディアをくらしの中で積極的かつ有効に活用するために、エンドユーザとしてコンピュータやネットワークを活用する基礎的能力を養う。実際にコンピュータに触れながら、コンピュータの基礎知識（ツールとしてのパーソナルコンピュータの使い方、ソフトウェアの使い方）を習得する。なお、本講ではコンピュータに親しむことに重点を置く。

■科目の内容

1. コンピュータの歴史および構造について学び、コンピュータへの理解を深める。
 2. エンドユーザとして必要とされるコンピュータの基本的な操作を習得する。
 3. ワープロソフト (MS-Word) による文書作成を通して、アプリケーションソフトの使い方を習得する。
 4. インターネットの基本的な活用を学ぶ。
 5. マルチメディアの概念を理解する。
-

■スクーリングのスケジュール

	ねらい	授業内容
1 日 目	1. コンピュータの基礎知識を学ぶ。 2. パーソナルコンピュータの基本的操作を習得する。 3. ワードプロセッサを使って文書を作成する。	コンピュータの歴史 ハードウェアとソフトウェア パソコンの基本操作 Windowsの基本的な使い方 Word の使い方(1)
2 日 目	1. ワードプロセッサを使って文書を編集する。 2. インターネットの基本的な活用を学ぶ。	Wordの使い方(2) インターネットの歴史 インターネットの基礎知識 インターネットの活用
3 日 目	1. 電子メールの使い方を習得する。 2. マルチメディアの概念を理解する。	電子メールの送信と受信 マルチメディアとは何か

■評価基準

スクーリング履修：出席による平常点および最終时限に実施する試験の総合評価とし、60点以上を合格とする。

■使用教材

参考書：文科系のためのコンピュータ活用入門（利根川孝一他著、同文館）

WindowsNTを用いたコンピュータリテラシー入門（齊藤幸喜他著、共立出版）

その他：3.5インチFD1枚

■連絡事項

実習を中心とするので、遅刻、欠席のないように留意すること。

【教科三】：情報理論

科目名	くらしとマルチメディアⅡ (1702S)	担当教員	加藤 あけみ 講師
単位数	2単位（スクーリング履修：2単位）		

■教育目標

デジタル情報機器や通信技術の飛躍的な向上により、コンピュータやインターネットが急速に普及し、マルチメディアが身近になってきた。このような現状に鑑み、マルチメディアをくらしの中で積極的かつ有効に活用するために、エンドユーザとしてコンピュータやネットワークを活用する基礎的能力を養う。実際にコンピュータに触れながら、コンピュータを表現媒体として活用する技術を習得する。

■科目の内容

1. 社会の変遷とコンピュータの歴史を振り返りながら、マルチメディアへの理解を深める。
2. 表計算ソフト（MS-Excel）による基本的な情報処理を学ぶ。
3. ホームページの基本的な作成方法を習得する。
4. ホームページの作成を通して、メディアリテラシーを考える。

■スクーリングのスケジュール

ね ら い	授 業 内 容	
1 日 目	1. マルチメディア社会と呼ばれる現状を把握する。 2. 表計算ソフトを使って表やグラフを作成し、表現媒体としての活用を考える。	社会の変遷と情報社会 マルチメディアの概要 Excel の基本操作 Excelの活用(1)
2 日 目	1. 表計算ソフトを活用する。 2. ホームページの基本的な作成方法を学ぶ。	Excelの活用(2) ホームページの作成(1)
3 日 目	ホームページの作成を通して、メディアリテラシーを考える。	ホームページの作成(2) ホームページ開設マナー メディアリテラシーについて

■評価基準

スクーリング履修：出席による平常点および最終时限に実施する試験の総合評価とし、
60点以上を合格とする。

■使用教材

参考書：WindowsNTを用いたコンピュータリテラシー入門（斎藤幸喜他著、共立出版）

社会論編マルチメディア標準テキストブック（財団法人画像情報教育振興協会）

その他：3.5インチFD1枚

■連絡事項

実習を中心とするので、遅刻、欠席のないように留意すること。なお、参考書「社会論編マルチメディア標準テキストブック」が最寄りの書店で購入できない場合は、03-3535-3501（財団法人画像情報教育振興協会）までお問い合わせください。

専門科目：基礎科目（必修）

科目名	人間科学概論 (2101T、2101S)	担当教員	佐藤 昭夫 教授
単位数	4単位（テキスト履修：2単位、スクーリング履修：2単位）		

■教育目標

人間は地球上で最も進化した生物であり、言語や文字を獲得し哲学、科学、宗教、芸術等高度な文化を創りあげてきた。一方、人間は未だに争いの本能を持ち続けている。

そのような人間の心と身体の特徴を科学的に学び、さらに人間の創り上げてきた文化についても学び、それによって人間の素晴らしさ、尊厳、自由、責任、愛などを理解しながら、他の人間と共に協調性をもちながら生きることの意義を考える。

■科目の内容

人間科学概論は、人間の心と身体と文化の統合的・学際的理解をはかる学問である。

第Ⅰ章 人間の誕生と社会の章では、人間が地球上に生まれた起源に迫り、次いで人が進化しつつどのような社会を形成し、自然や人以外の生物とどのように関わってきたかについて学ぶ。人間のもつ尊厳、愛、自由、責任、他人と共に生きる意義を理解する。

第Ⅱ章 人間の「心」と「脳」・「身体」の章では、人間の心と脳・身体がどのように関わっているかについて、人間の様々な心の在りようと、心を作り出す脳の仕組みや身体と脳の密接なつながりを理解する。

第Ⅲ章 人間の作り出した文化の章では、人間の作り出した文化について、コミュニケーションの在り方、芸術、宗教、哲学、思想、科学の進歩について学ぶ。

全体を通して人間とはどのような存在かを大きく理解し、個人個人が一生を通してどのように尊厳と愛の心をもちながら生きるかを探る。

■スクーリングのスケジュール

	ね　ら　い	授業内容
1 日 目	人間科学概論で人間の心と身体と人間の創り出した文化を科学的・統合的に理解する意義を学ぶ。 人間を科学的に理解する第一歩として人間の地球上における誕生と高い知識をもち、高度な社会的生物としての特徴を学ぶ。	人類の誕生 ヒトの一生 個人と集団と社会 心を創り出す脳
2 日 目	人間のもつ心と身体の関係を学ぶ。脳の生み出す心を理解するために、脳のもつ基本的な働きと、さらに脳と心を支える身体の営みについても学ぶ。	脳が生み出す心 心と脳を支える身体の営み 心と身体機能との相互関係
3 日 目	人間が長年かけて築き上げてきた文化について学ぶ。	文化とは コミュニケーション 芸術 宗教、思想、哲学 国家と社会 科学

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：人間科学概論テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

専門科目：基礎科目（必修）

科目名	行動科学概論 (2102T、2102S)	担当教員	筒井 末春 教授
単位数	4単位（テキスト履修：2単位、スクーリング履修：2単位）		

■教育目標

人間を理解するにはその行動に注目する必要がある。そのスタートは心理学や社会学であったが、その後、学際的分野として人間の行動を研究する生理学、精神医学、生物学、統計学、情報工学などの諸科学を包括した学問体系として発達してきている。

また医学の領域では行動医学が登場し、病気の治療や疾病の予防、健康増進にとり入れられている。これら幅広い視野から人間行動の原理を解明し、科学理解を目指す。

■科目の内容

行動科学は、人間行動を理解するための科学である。

第1章で人間理解としての心理学を学び、第2章では心と行動との関連を理解し、脳の機能や構造、行動の発現に関与する神経化学的側面を学ぶ。

第3章では個人行動の理解をすすめるうえで、感情や気分に関する知識を整理し、人間のパーソナリティについて学ぶ。また精神病理現象について触れ、行動の形成と変容に関して学ぶ。

第4章では心の発達、成長について新生児から高齢者に至る過程を理解する。

第5章は対人行動と社会行動について学び、第6章では人間行動の文化・社会的側面について触れ、社会現象のなかでみられる問題を理解する。

第7章では行動科学と心身医学について学び、虚血性心疾患にみられるタイプA行動を理解する。第8章では行動医学療法について理解を深める。

■スクーリングのスケジュール

	ねらい	授業内容
1 日 目	行動科学概論で人間を理解するうえでまず心理学の概論を学び、次いで心と行動との関連について知識をもち、さらに個人行動の理解を深める。	心理学序論 脳の構造と機能 自律神経系・内分泌系・免疫系 パーソナリティ
2 日 目	心の発達段階を学び、次いで対人行動と社会行動についての理解を深め、さらに人間行動の文化的、社会的側面にも目を向ける。	人間の発達段階 コミュニケーション 家族 アルコール依存 自殺
3 日 目	行動科学と心身医学との関連を理解し、次いで行動医学療法について学ぶ。	健康習慣 タイプA行動 行動療法 バイオフィードバック法

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の时限に実施する試験の総合評価とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：行動科学概論テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

専門科目：基礎科目（必修）

科目名 (2103T, 2103S)	生命科学概論	担当教員 玉井 洋一 教授
単位数	4単位（テキスト履修：2単位、スクーリング履修：2単位）	

■教育目標

人間とは何かを理解するためには、生命、生命体、生物とは何かの理解が求められる。生命には生物学的な意味の生命とともに、いのち、あるいは人生・生活の意味もある。臓器移植や遺伝子の人為操作が可能な現在、生命科学は生物学や医学といった自然科学のみならず、人文科学、社会学、哲学、倫理学を含む総合科学として捉える必要がある。本教科目では、生命の生物学的な仕組みを学んだ上で、いのちや生きることの意味について考える。

■科目的内容

- 第Ⅰ章 生命とは何か、生命体の特徴、地球上において生命がどのようにして誕生し、現在みられる個体と系統の維持という秩序を持つに至ったかについて学ぶ。
- 第Ⅱ章 生命体の構造的、機能的単位である細胞について学ぶ。細胞の構造と細胞を構成する小器官の働きを理解する。
- 第Ⅲ章 生命体（細胞）を作り上げている重要な分子、化学物質は何か。またそれらが細胞の機能とどのような関係にあるかを理解する。
- 第Ⅳ章 生物が個体を維持し活動するために必要なエネルギーが、細胞内の化学反応によって作られる仕組みについて学ぶ。
- 第Ⅴ章 親の形質が子に伝えられることを遺伝という。本章では遺伝を担う実体（遺伝子）、遺伝の仕組み、生命の寿命と遺伝子との関わりについて学ぶ。
- 第Ⅵ章 自然科学的、哲学的、および進化の観点から生命はどのように考えられてきたかについて学ぶ。科学技術の発達に伴う遺伝子治療と人類の進化の過程についても触れる。
- 第Ⅶ章 医学は自然科学の中でどのように位置づけられるか、高度に発達した生命科学の知識や技術が社会倫理や生命倫理とどのようにして共存し得るか、人間の尊厳とはなにかについて考える。
- 第Ⅷ章 ヒトの生命の誕生と遺伝子異常をもって生まれた児の家族の体験記を教材に、生命と社会との関わり、人間の生き方について考える。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1 日 目	生命体の定義、生命の基本単位である細胞の構造、細胞を構成する主な分子・化学物質の働きについて学ぶ。	生命の定義、生命の起源・化学進化・生命的誕生、細胞の発見、細胞の構造、細胞内小器官、核酸・タンパク質・糖質・脂質の基礎知識
2 日 目	生命活動を維持するエネルギーが細胞内で生み出される仕組み、および遺伝子の本体と遺伝の仕組みについて学ぶ。	酵素、ATP、栄養素の代謝経路、ATP産生、エネルギー産生の調節、遺伝の法則、DNAの機能、遺伝子、染色体、転写と翻訳の仕組み、細胞の老化と死
3 日 目	(学長特別講義) 生命についての考え方、生命倫理、および人間の生き方について諸君とともに考える。	生命的誕生と人類の歴史、倫理・倫理学、生命倫理の課題、科学と医療、遺伝子異常児、人間の生き方

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験で60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の时限に実施する試験との総合評価とする。
総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：生命科学概論テキスト

参考書：テキストの中に挙げる。

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。また、同時に配布する「正誤表」に基づいて、テキストの誤りを必ず訂正しておくこと。

専門科目Ⅲ：基礎科目（必修）

科目名	表現科学概論 (2104T、2104S)	担当教員	濱田 明 教授
単位数	4単位（テキスト履修：2単位、スクーリング履修：2単位）		

■教育目標

人類が集団生活を始めて以来、地球上にはさまざまな社会が形成された。人びとはその社会にあって言語を使用し、また自己の表現や相互の意志伝達のためにさまざまな表現手段を創り上げ発展させてきた。それは文字を用いた文学的領域のものだけでなく、絵画や造形をもとにした各種の芸術的領域を含め幅広い文化的遺産を残してきた。表現科学概論では、そのような多様な文化的領域を言語の生成の時期から考察し、今日に至るまでのそれらの展開を概観し、併せて今後の在り方を考えようとするものである。

■科目の内容

表現科学概論は上述のように人間が創りだしてきた様々な文化的領域を歴史的かつ地域的に、総括的に考察しようとする学問である。ただし、ここでは全世界のものを視野に置きながらも、その表現活動が世界でもっとも際立った典型をなすような国であるフランスを代表的例として考えることにした。

- 第Ⅰ章 言語と表現：言語とは何か、表現とは何かを一般論として考察する。
 - 第Ⅱ章 地域社会と言語：世界諸言語の系譜を跡付け、その内フランスの言語と国家の成立を考察する。
 - 第Ⅲ章 文化と文学表現の展開：ルネッサンス期から17世紀に至る芸術および文学の表現形式の展開を跡付ける。
 - 第Ⅳ章 思想と表現の自由化：18世紀から19世紀に至る表現を中心に文学芸術の発展の諸相を概観する。
 - 第Ⅴ章 表現の革命と前衛の誕生：20世紀、戦前と戦後の文学芸術の斬新な表現について考察する。
-

■スクーリングのスケジュール

	ねらい	授業内容
1 日 目	(1)人間社会で情報伝達のかなめともなる言語とは何かについて考え、その発生と展開をフランスを一例として見ていく。文学表現の精髄は「詩」であるから、とくに詩とは何か詩人とは何かを考える。 (2)文学・芸術の原点は中世にあると思われるので、中世の表現について特に作品を見ながら考えていく。	①世界諸言語の系譜 ②言語と文学表現 ③とくに詩と詩人について ④中世の文学・芸術表現を作品に即して概観する
2 日 目	(1)ルネッサンス期の表現を作品を見ながら概観する。 (2)その後に来た古典主義について考える。	①ルネッサンスとは何か ②ルネッサンスはなぜ起きたか ③ルネッサンス期の文学芸術 ④日本のルネッサンス ⑤古典主義とは何か ⑥世界に冠たる古典演劇
3 日 目	(1)フランス革命前後の思想と表現に見られる自由化を考える。 (2)19世紀の表現を概観する。 (3)20世紀・戦前と戦後の表現を考える。 (4)現代のアヴァンギャルドはいかなるものか。	①新旧論争 ②エスプリ・ヌーヴォ(新しい精神) ③ロマン主義とリアリズム ④いわゆるグラン・ロマンとは何か ⑤ベルエポックとモンマルトル ⑥エスプリ・ヌーヴォとモダニズム ⑦ダダ、シュルレアリズム。 そしてヌーヴォロマン

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験で60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の時間に実施する試験の成績を総合しながら評価する。60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：表現科学概論テキスト

参考書：テキストに記載した参考図書のほか、各自で良いと思ったもの。

■連絡事項

スクーリング受講時には、必ずテキストを持参すること。

専門科目：基幹科目

科目名	人間科学論 (2201T、2201S)	担当教員	佐藤 優子 教授
単位数	4単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

高度に発達した文明社会に生まれ育つ現代の人間は豊かな文明を享受できる一方で、急速に変化する自然や社会環境に適応することを迫られている。人間科学論では人間が長い歴史の中で自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応して来たかについて学ぶ。さらに科学や産業が発達し、人間が活動を広げる中で、地球が大規模に破壊されつつあり、人間がそれに新たに対応している様子を学ぶ。

次世代が心身ともに充実して自然と共に生を楽しむ地球環境を作るために私達は何が出来るかを考える。

■科目の内容

第Ⅰ章 現在人間が住んでいる地球環境は人間のみに与えられたものではなく、他の生物と共有するものである。人間と自然との関わりについて学び、人間が作った文化に適応する人間について考える。

第Ⅱ章 他の生物に比べて成長の遅い人間の心身の発達に家庭や学校環境が与える影響が大きい事を学ぶ。

第Ⅲ章 人は環境の変化に適応して身体の恒常性を保つ仕組みを備えているが、その仕組みが限られていることを学ぶ。

第Ⅳ章 日常の生活習慣や人間による環境汚染がもたらす疾患やその予防について考える。

第Ⅴ章 地球環境を破壊することなく、文化の発展を持続するための社会システム作りについて考える。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1 日 目	生物が自然の揺に従ってバランスを保って生きてきたことを学ぶ。人間は自然に対して微力な存在であるが、発達した大脳と言語を使って繁栄してきたことを学ぶ。 人間の成長過程で大脳が環境の影響を受けつつ非常にゆっくりと発達することを学び、教育の重要性を考える。	人間と自然・文化的環境 人間らしさの生涯発達に及ぼす環境の影響
2 日 目	環境の変化に適応するホメオスタシスとその仕組みの限界について学ぶ。 科学の発展が人間の寿命を伸ばし、人間に快適な生活をもたらした一方で、新たな環境汚染を作り出していることを学ぶ。	人間の環境適応のメカニズム 人間の健康と環境の影響
3 日 目	人間が快適な環境を創って適応し、地球上に繁栄した一方で、地球資源を枯渇させるなど地球全体の問題を起こしていること、人間がこれらの問題を解決する力を備えていることを学ぶ。	環境問題の出現と人間の対応

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の时限に実施する試験の総合評価とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：人間科学論テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

専門科目：基幹科目

科目名	人間関係論 (2202T、2202S)	担当教員	島田 凉子 助教授
単位数	4単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

臨床心理学は、一人一人の人間の幸福に貢献する方法を追求してきた。個々の心理療法理論に、われわれが己れの真意に背くことなく主体的に社会とかかわりながら、より満足に生きるために役立つ人間観や、人間関係の捉え方を探求する。さらに、交流分析(TA)の手法には、自律的人間として対人関係を健康なものとするための主体の行動変容に役立つ実践的な理論を学ぶ。

授業では、テキストの記述で解りにくかった部分を、具体例による説明などを補って詳しく解説する。

■科目の内容

人間関係論では、臨床心理学の歴史における人間関係に関する議論の系譜をたどりつつ、精神分析からTAまでの個々の理論を概観し、さらに、個人の行動パターンを具体的な交流(やりとり)の分析を用いて解明し、それを変えるための方法をTAに学ぶ。第1章では、精神分析に始まり人間性心理学に至る臨床心理学の歴史を概観する。

第2章では、臨床心理学の基礎的知識として精神分析を学ぶ。

第3章では、精神分析から分裂して生まれた心理学である、C.G.ユングの分析的心理学とA.アードラーの個人心理学について学ぶ。

第4章では、心理学の第三勢力と言われる人間性心理学について学ぶ。

第5章では、人間関係を理解するための理論としてTAを学ぶ。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1 日 目	臨床心理学の歴史と領域を把握し、現在に至るまで臨床心理学のあらゆる理論にとってその知識が前提ともなっている精神分析の諸概念を理解する。	第1章 臨床心理学の歴史 第2章 S.フロイトの精神分析とそれ以後の精神分析
2 日 目	C.G.ユングとA.アードラーの心理学を精神分析との差異から理解し、また、人間性心理学の誕生した経緯と、そこに属する個々の理論を、とくにその思想と心理療法としての手法に着目して学ぶ。さらに、TAの基本的理念、自我状態の分析および交流の分析について学ぶ。	第3章 精神分析から分裂して生まれた二つの心理学 第4章 人間性心理学 第5章 TA（契約、自我状態、交流、ストローク）
3 日 目	複雑な人間関係を解明し、変えるために役立つ理論として、ゲーム分析を中心にTAを学ぶ。	第5章 TA（ラケット、ゲーム、値引き、人生の立場、脚本、ドライバーズ、禁止令、時間の構造化）

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の时限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：人間関係論テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

専門科目：基幹科目

科目名	健康科学論 (2203T、2203S)	担当教員	飯田 静夫 教授
単位数	4単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

豊かでたくましい人生を送る為に、健康とはなにかについて改めて考え方直してみます。

身体や精神はどのような状態のときに健康といえるのか、どんなときに障害を受けるのか、健康に影響を与える環境因子は何か、健康に関連する社会的な環境、経済的な基盤、健康な生活を営むための条件はなにか、などについて学び、理解し、それに基づいて具体的に私たちの健康を守り、増進させる為にはどう行動するのか考えることにします。

■科目の内容

健康とは何か。健康の定義。健康観の変遷。人の生死。発育段階による機能の変化。性。心身の機能と障害。ストレス。健康に影響を及ぼす要因。生活習慣・日常生活行動。食生活。運動・スポーツ。体重。たばこ、アルコール、薬物。環境要因。感染症。健康な生活を営むための社会的体制。保健行動。健康を守る体制。患者と医療者との関係。

■スクーリングのスケジュール

ね ら い	授業内容
1 日 目	健康とは何か、いろいろな健康観について学び、生きる上での健康の価値について考えます。 健康の定義 健康観の変遷 人生と健康
2 日 目	心身の状態の発育に伴う変化について学び、それぞれの段階での健康問題を取り上げて考えます。 心身の機能 生活習慣
3 日 目	健康に影響を及ぼすいろいろな要因、健康を守る為の体制について学び、健康を保つためにはどう行動するのか考えます 環境問題 健康を支える体制 保健行動

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験で60点以上を合格とする。

スクーリング履修：出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：健康科学論テキスト

(その他、必修科目のテキストも参考にしてください)

■連絡事項

スクーリング時には教科書「健康科学論」を使用します。また皆さんの意見を口頭で聞きます。

専門科目：基幹科目

科目名	比較文化論 (2204T、2204S)	担当教員	大東 俊一 専任講師
単位数	4単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

異文化を理解することは、自らの文化をよりよく理解するきっかけとなる。異文化理解に関する理論的側面や実際的な場面を考察することからはじめて、日本文化をよりよく理解する道を考えてみたい。

■科目の内容

テキストの項目は次の通り。

第1章 比較文化論入門。

第2章 和辻哲郎の『風土』を読む。

第3章 異文化を生きた人々—ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）。

第4章 異文化の受容—日本における進化論の受容をめぐって。

第5章 異文化との葛藤—岡倉天心の文明論。

（日本文化を軸にした考察を中心に行う）

■スクーリングのスケジュール

ね ら い	授業内容
1 日 目 日本文化の形成とその特質について学ぶ	歴史、宗教（神道、仏教、儒教、民俗宗教）、美意識
2 日 目 近代の西洋文化との比較	近代思想、近代科学、芸術、文学、文明論
3 日 目 同上	同上

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：出席状況と試験による総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：比較文化論テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを持参すること。

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	発達心理学 (2301T)	担当教員	中野 博子 助教授
単位数	2単位 (テキスト履修:2単位)		

■教育目標

人間が人間らしく成長するためにはどのような条件が必要かを発達的視点から考えることを目標とする。発達には知的能力の発達、運動能力の発達、認知能力の発達などさまざまな発達が考えられるが、ここでは特に「こころの健康」と関係が深いと思われる情緒的側面の発達を重視したい。人間の発達を誕生したときから死に至るまでの期間全体ととらえ、ライフサイクルの視点から各年代の発達課題を学ぶ。

■科目の内容

人間の発達を生涯発達の中に位置付けた上で（第Ⅰ章）、心理的発達を理解するための基礎知識を学ぶ（第Ⅱ章）。また、ヒトが人間として育つために生得的条件および環境的条件の役割をいかにとらえるのかについて、まず条件が欠如した環境で生育した場合のさまざまなケースについて学習し（第Ⅲ章）、次に動物の発達における初期経験の影響を学習した上で、ヒトの場合に初期経験がどのようにその後の人格に影響するのかを学ぶ（第Ⅳ章）。先人たちが発達をどのように捉えてきたのかを整理（第Ⅴ章）し、最終的に今後の発達心理学の課題についてまとめる（第Ⅵ章）。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：発達心理学テキスト

■連絡事項

発達心理学を学習するにあたって、比較的わかりやすい参考図書についてお知らせしてあります。興味のある人は理解を深めるためにそれらの中で比較的なじみやすいもので結構です。読んでみてください。

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	発達心理学 (2302S)	担当教員	中野 博子 助教授
単位数	1単位 (スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

人間が人間らしく成長するためにはどのような条件が必要かを発達的視点から考えることを目標とする。発達には知的能力の発達、運動能力の発達、認知能力の発達などさまざまな発達が考えられるが、ここでは特に「こころの健康」と関係が深いと思われる情緒的側面の発達を重視したいと考えている。人間の発達を誕生したときから死に至るまでの期間全体ととらえ、ライフサイクルの視点から各年代の発達課題を学ぶ。

■科目の内容

人間の発達を生涯発達の中に位置付けた上で、心理的発達を理解するための基礎知識を学ぶ。また、ヒトが人間として育つために生得的条件および環境的条件の役割をいかにとらえるのかについて、まず条件が欠如した環境で生育した場合のさまざまなケースについて学習し、次に動物の発達における初期経験の影響を学習した上で、ヒトの場合に初期経験がどのようにその後の人格に影響するのかを学ぶ。最終的に今後の発達心理学の課題についてまとめる。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	人間の心理学的発達についての基礎的な問題について学習し、心理学的研究を理解できるようにする。	発達心理学とは 人間の発達
4時限目～6時限目	ヒトが人間として育つ条件についていかに考えてゆくべきかを、多くの側面から考えられるようになる。	ヒトが人間になるとはどういうことか 初期経験の影響、アタッチメント
7時限目～8時限目	これまでに学んだ知識をもとにして、実際にそれらをどう生かしていくのかについて考える。受講者ひとり一人が自分なりの考えを展開できることが最終的な目標である。	人間の発達の可能性と諸問題

■評価基準

スクーリング履修：講義出席状況、受講態度、最後の時限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：発達心理学テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参してください。特にスクーリングの授業では対面でのメリットを生かし、テキストではなかなかイメージのつかみにくい部分をVTR等視聴覚によって補ったり、テキストでは伝わりにくい臨床的な事例についてのお話を多くしたいと考えています。その分、授業時間内に全体の体系を網羅することは不可能になると思います。したがって、自分なりにテキストは読んでおいてください。受動的に知識を詰め込むのではなく積極的に授業に取り組んで頂きたいと思います。

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	青年期心理学 (2303T)	担当教員	中野 博子 助教授
単位数	2単位 (テキスト履修: 2単位)		

■教育目標

青年期の心理的な問題はきわめて現代的で、しかも一方向からの観点からでは理解しにくいものと感じられる。さまざまに露呈する問題に対しても、単に情緒的・常識的な対応ではなく、青年期の特質、発達課題、親との関係、生物・心理・社会的背景など多様な視点からの考察が必要である。青年期心理の論理的枠組みを学習し、問題の背景にあるものが何であるか見極められる力、人間理解の方法を身につけることを目標にしたい。

■科目的内容

青年期について理解するための基礎的な知識を得る。成長過程のひとつの段階として身に付けるとともに、これまでに語られてきた青年期の理論について学習し、また現代の青年期の様相についても学習する。特に、この時期に重要なテーマとなる、「自我」の問題、性役割の問題、親との関係の問題については詳しく触れ、青年期を立体的に眺められるようにする。さらに、成長の過程で困難にぶつかる場合が多々あるのも青年期の特徴である。これらについての基礎知識を学習する。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：青年期心理学テキスト

■連絡事項

青年期心理学は、非常に社会の影響を受けやすい分野です。普段から青年のこころに関する書物（小説、ドキュメント、詩集、なんでもいい）、新聞記事などに興味をもって目を通すようしてください。

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	青年期心理学 (2304S)	担当教員	中野 博子 助教授
単位数	1単位 (スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

青年期の心理的な問題はきわめて現代的で、しかも一方向からの観点からでは理解しにくいものと感じられる。さまざまに露呈する問題に対しても、単に情緒的・常識的な対応ではなく、青年期の特質、発達課題、親との関係、生物・心理・社会的背景など多様な視点からの考察が必要である。青年期心理の論理的枠組みを学習し、問題の背景にあるものが何であるかを見極められる力、人間理解の方法を身につけることを目標にしたい。

■科目の内容

青年期について理解するための基礎的な知識を得る。成長過程のひとつの段階として身に付けるとともに、これまでに語られてきた青年期の理論について学習し、また現代の青年期の様相についても学習する。特に、この時期に重要なテーマとなる、「自我」の問題、性役割の問題、親との関係の問題については詳しく触れ、青年期を立体的に眺められるようにする。さらに、成長の過程で困難にぶつかる場合が多々あるのも青年期の特徴であるが、このようなときにどのように受け止めたらいいのかを、いくつかの事例を通じて理解する。事例の理解のための基本的な知識の整理も予定している。

■スクーリングのスケジュール

	ねらい	授業内容
1時間目～3時間目	青年期を理解するための基礎的知識を身に付ける。	生涯発達の中での青年期、青年期についての理論、青年期における発達の様相
4時間目～6時間目	青年期をめぐるテーマのうちでも特に重要ないくつかのテーマを選んで検討する。	青年期の自我発達について、性役割・性同一性の問題、親との関係
7時間目～8時間目	これまでの学習を通じて得られたことを前提に、青年期に生じる問題について、具体的な事例を挙げながら検討する。この作業を通じて青年期のさまざまな存在の仕方を理解し、かれらの成長のために私たちにできることは何かを考えたい。	事例提示・検討、事例理解のための方法、まとめ

■評価基準

スクーリング履修：講義出席状況、受講態度、最後の時間に実施する試験の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：青年期心理学テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れないで持参してください。また、青年期の心理学は、非常に社会の影響を受けやすい分野ですので、普段から青年のこころに関する書物（小説、ドキュメント、詩集などなんでもいい。本ではないが、流行歌の歌詞でもOK）、新聞記事などに興味をもって目をとおすようにしてください。問題意識をもっての授業参加を期待しています。

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	産業心理学 (2305T)	担当教員	平 陽一 講師
単位数	2単位 (テキスト履修:2単位)		

■教育目標

現代の産業社会における人間心理について分析検討していく。仕事への動機付け、人間の能力を引き出すための作業分析、職場における人間関係、職場適応とメンタルヘルスの実際、ストレスマネージメント、先進テクノロジーと人間の関係、労働安全衛生管理体制の中での位置付け、作業環境と精神衛生、快適職場づくりの実際、消費者行動の心理などについて考える。

■科目の内容

産業心理学の基礎について、主に、作業と環境、ヒューマンエラーと安全、消費社会・情報化社会における心理的問題を中心に、人が「働く」ことによって何を得ようとし、実際、何を得てきたのか。一方で、目的と意義を見失い、失ってしまうものもなかっただろうか。「働く」ことが、人間にとつていかなる意味を持つことなのか原点に立ち返って学んでいく。

1. 作業研究の歴史と作業分析の実際について
2. 作業負荷と疲労、および作業パフォーマンスについて
3. 職場の人間関係
4. マン・マシン・インターフェイス
5. 快適な作業環境作り
6. 人の情報処理とヒューマンエラー
7. 産業事故
8. 現代社会の問題とリスク
9. モータリゼーションと交通社会
10. 消費者行動の心理的メカニズム
11. 現代社会と消費の問題
12. マーケティング
13. 情報化社会と産業
14. 職場のメンタルヘルス

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：現代社会の産業心理学（向井希宏・蓮花一己、福村出版）、リーディングガイド

■連絡事項

特になし

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	産業心理学 (2306S)	担当教員	平 陽一 講師
単位数	1単位（スクーリング履修：1単位）		

■教育目標

現代の産業社会における人間心理について分析検討していく。仕事への動機付け、人間の能力を引き出すための作業分析、職場における人間関係、職場適応とメンタルヘルスの実際、ストレスマネージメント、先進テクノロジーと人間の関係、労働安全衛生管理体制の中での位置付け、作業環境と精神衛生、快適職場づくりの実際、消費者行動の心理などについて考える。

■科目の内容

産業心理学の基礎と応用について、歴史や研究方法について振り返りつつ、実際の産業現場で問題となる事例や課題を含めて、立体的な学習を行うものとする。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	基礎編。主に、教科書「現代社会の産業心理学」を用いて、テキスト履修の復習と補足を行う。	労働と環境 作業と安全 消費者・情報化社会における産業
4時限目～8時限目	応用編。主に、リーディングガイドの補足資料に基づき、労働安全衛生管理と産業心理学の応用および臨床的側面について学習する。	労働安全管理とメンタルヘルス 現代産業社会におけるメンタルヘルスの課題 職場のストレスとその対応 メンタルヘルスケアの実際 ストレスマネージメント (8時限目後半35分は試験)

■評価基準

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：現代社会の産業心理学（向井希宏・蓮花一己、福村出版）、リーディングガイド

■連絡事項

スクーリング受講時には、教科書とリーディングガイドを忘れず持参すること。

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	社会心理学 (2307T)	担当教員	村林 信行 講師
単位数	2単位 (テキスト履修:2単位)		

■教育目標

社会心理学は、人間の行動のなかでも他者に影響を与える社会的行動に関する研究を行う。従ってその内容も個人心理学、社会学、文化人類学、精神医学など様々な分野での知見を取り入れている。本講義では、個人対個人、個人対集団の関係に着目し、より健康な関係を築くための対人コミュニケーションについて学ぶ。

■科目の内容

社会心理学とは、社会的事態、環境、文脈が個人の認知、感情、行動意図、行動等に影響を及ぼす過程を研究する学問である。

第1章では社会心理学の定義、歴史、研究法について学ぶ。

第2章では自己と他者の関係を主として「態度」という視点を通して学ぶ。

第3章では対人関係の問題について学ぶ。

第4、5章では社会心理学を応用した代表的な分野について学ぶ。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：いんとろだくしょん 社会心理学（細江達郎他著、新曜社）、リーディングガイド

■連絡事項

特になし

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	社会心理学 (2308S)	担当教員	村林 信行 講師
単位数	1単位 (スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

社会心理学は、人間の行動のなかでも他者に影響を与える社会的行動に関する研究を行う。従ってその内容も個人心理学、社会学、文化人類学、精神医学など様々な分野での知見を取り入れている。本講義では、個人対個人、個人対集団の関係に着目し、より健康な関係を築くための対人コミュニケーションについて学ぶ。

■科目の内容

社会心理学とは、社会的事態、環境、文脈が個人の認知、感情、行動意図、行動等に影響を及ぼす過程を研究する学問である。

第1章では社会心理学の定義、歴史、研究法について学ぶ。

第2章では自己と他者の関係を主として「態度」という視点を通して学ぶ。

第3章では対人関係の問題について学ぶ。

第4、5章では社会心理学を応用した代表的な分野について学ぶ。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	社会心理学の定義・歴史・研究法を学ぶ 個人と個人の関係について学ぶ	定義・歴史・研究法 態度
4時限目～6時限目	個人と個人、個人と集団の関係について学ぶ	対人コミュニケーション 集団、文化
7時限目～8時限目	社会心理学の応用分野について学ぶ	マスコミュニケーション 環境 ストレスと身体の健康

■評価基準

スケーリング履修：出席による平常点および最終時限に実施する試験の総合評価とし、
60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：いんとろだくしょん 社会心理学（細江達郎著、新曜社）、リーディングガイド

■連絡事項

特になし

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	ストレス (2309T)	担当教員	芝山 幸久 講師
単位数	2単位 (テキスト履修:2単位)		

■教育目標

現代はストレス状態が、心理・社会的ストレッサーによって惹起され、メンタル不全を引き起こし、社会的な問題にも発展しつつある。本教科目では、誰もが1度は耳にしたことがある「ストレス」に目を向けて、その概念にはじまり、ストレス状態の成り立ちやストレスコーピングにも触れ、ストレス対処法についても学習する。

■科目の内容

- 第Ⅰ章 ストレスの概念の理解を深めるために、ストレス研究の歴史的変遷を概観し、心身相関のメカニズムについて学ぶ。
- 第Ⅱ章 現代社会におけるストレスを理解するために、家族、学校、職場のストレスや、ライフサイクル上の発達課題について学習し、心療内科の現状についても触れる。
- 第Ⅲ章 ストレスマネジメントとして、日常生活の中でのストレス対処法と、ストレス性疾患に対する治療的介入についても学習する。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：ストレステキスト

■連絡事項

特になし

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	中・高齢者的心とメンタルヘルス (2310T)	担当教員	中野 弘一 講師
単位数	2単位 (テキスト履修:2単位)		

■教育目標

中年期および老年期の心の特性の概要を理解する。現在、行政や企業で行われているメンタルヘルスあるいは福祉という視点からのメンタルヘルスに対して、心理的のみならず身体的また社会的次元を含めた多次元的な視点で評価することができることを目標とする。理論的背景よりも症例にそくして実践的な内容の理解習得を目標としている。

■科目の内容

中年期および老年期の心理的現象の多次元的な理解と症例を通しての、メンタルヘルスの実践を示している。なお、概説を除くすべての章で症例を挙げ、周辺の知識を解説している。

1部 中年期の心とメンタルヘルス

- 1章 概説
- 2章 中年期心身症
- 3章 中年期の抑うつ反応
- 4章 更年期障害
- 5章 空の巣症候群
- 6章 介護する中年夫婦のメンタルヘルス

2部 高齢者の心とメンタルヘルス

- 7章 概説
- 8章 高齢者の神経症
- 9章 痴呆
- 10章 高齢者の抑うつ反応
- 11章 慢性腎臓病告知後の反応

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。五者択一の多肢選択問題（テキスト課題と同じ形成）を出題する。なお、出題の内訳は、症例の評価と介入に関する問題解決型の設問5題と知識に関する設問5題の予定。

■使用教材

教科書：中・高齢者の心とメンタルヘルステキスト

■連絡事項

テキストが学習者に語りかける、いわば文字による授業をイメージしている。文中にある図表はスクーリングにおける板書と思っていただきたい。テキスト履修ではあるが、スクーリングで授業を受けているような気持ちになれればと願っている。

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名	カウンセリング論 (2316T、2316S)	担当教員	中野 博子 助教授
単位数	4単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

初めてカウンセリングを学ぶ人を対象に、カウンセリングの役割とは何か、医療的指導や、教育との違いは何か、どのような方法で行なうのかといった基本的な問題を理解できるようにすることを第1の目標とする。これらの理解のために、カウンセリングの理論体系についてもある程度の基礎的な知識をもてるようにならう。また、実際の治療関係では、カウンセラー本人の感情が非常に大きな意味をもつと思われるため、自己理解を深めることも重要な目標のひとつである。

■科目の内容

テキスト履修によって、主にカウンセリングの役割、カール・ロジャーズのクライエント中心療法を基礎とするカウンセリングの理論、実際のカウンセラーの訓練におけるシミュレーション、実際の事例をどのように考えてゆくのかの3点を学び、カウンセラーを目指す者の学習過程を追体験する。スクーリングでは、カウンセリングについての基本的な問題にふれるとともに、テキストに追加してロジャーズ以外のカウンセリングに関する深い理論の学習、クライエント理解のために必要な知識の学習、認定臨床心理士についての最新情報、自己理解のための心理テスト実習、自分の応答についての理解などが進むようにしたいと思っている。

■スクリーニングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1 日 目	カウンセリングの基本的な問題を理解し、実際の臨床心理士の資格や仕事がどのようなものかを理解する。さらに、カウンセリングを行なうにあたって必要な、理論について学ぶ。	クライエントの理解、カウンセリングとは、援助すること、聴くこと・わかること、カウンセラーの基本的あり方、カウンセリングの人間観、認定臨床心理士の現状、臨床心理学の諸学派の理論
2 日 目	カウンセリングの場面でのクライエント理解のために知っておきたい知識についてまとめる。また、実際のカウンセリング場面での具体的な問題点についての解説をする。さらに、カウンセラーとしての自己理解のための時間を設ける。	人格心理学、ライフサイクルから見た心の発達、人格障害とDSM-IV、対象喪失、カウンセラーとしての自己理解、カウンセラーの応答訓練
3 日 目	これまでに取り上げたさまざまな知識や体験に根ざして、各々が自分のフィールドで活かしてゆけることは何かについて考える。実際の医療現場における事例を提供する。事例の提示は受身的に聞くのではなく、今回学んだことを自分なりに活かしてゆく方法を考えるきっかけにしてほしい。	事例検討、各自の学んだことの検討、まとめ

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクリーニング履修：講義の出席状況（授業に対する参加態度も含んだ）、最後の時限に実施する試験の総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：カウンセリングを学ぶ 理論・体験・実習（佐治守夫・岡村達也・保坂亨著、東京大学出版会）

スクリーニング履修では別にプリントを配布します。

■連絡事項

スクリーニング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

カウンセリング論は知識の習得だけでなく、スクリーニングでの体験も大切にしたいただきたいと思います。

専門科目：展開科目Ⅰ群 こころ・精神の理解

科目名 (2317S)	カウンセリング実践	担当教員	野田 重雄 専任講師
単位数	2単位 (スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

カウンセリングの場では、状況に即したカウンセラーの対応が必要である。いかにカウンセリングの理論に通じていようとも、カウンセラーが来談者と心を通わすこともできず、その期待に応えられないようでは失格といわなければならない。

そこで、クライエントからの信頼を十分に得られ、持ち込まれた問題の解決を援助するには、カウンセリングをどのように行えばよいか、そのためにはカウンセラーはいかに在るべきか、ということが課題となる。これらの課題をマスターするのが本科目の教育目標である。

■科目の内容

カウンセリングはクライエントからの信頼を得て成り立つもので、その上にカウンセリングは効果的に展開してゆくことになる。そして、それら二つの努力目標に必要なものは、それぞれに「どのようにすればよいか」という方法論と「カウンセラーはいかに在るべきか」という問題がある。前者には、まず来談者とのコミュニケーションに不可欠な「基礎的技法」があり、次いで状況に応ずるノウハウとしての「カウンセリングの進め方」がある。後者は、カウンセラー自身についての態度・資質・能力などのパーソナリティともいべきものである。

したがって、本科目は主としてこれらの要素からなっている。なお、本科目はカウンセリングについての入門的位置にあるため、基礎を固め、自学研鑽への動機づけとなるように、「カウンセリングとは何か」と「カウンセリングにおける決め手とは何か」という本質的問題にも言及して理解を求めるにした。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1 日 目	カウンセリングについての基礎を固め、自学研鑽の動機づけとなるように、また素養の高い者も興味が持てるように本質論を取り上げた。	カウンセリングとは何か カウンセリングにおける決め手とは何か
2 日 目	来談者との信頼関係の構築と問題解決のために必要なコミュニケーション上の基礎的技法を体験を交えて修得させる。	カウンセリングの基礎的技法
3 日 目	カウンセリングの過程を「信頼関係の醸成」「問題の核心の把握」「適切な処置」の3段階として捉え、それぞれにおける状況に応じたカウンセリングの進め方について、体験を交えながら理解させる。この際、1日目に履修した基礎的技法も併せて訓練する。	カウンセリングの進め方
	不完全な逐語録を修正させることにより、言葉の遣り取りについて基本的に修得させる。 守秘義務のあり方を本質的に理解させる。	逐語録の検討 守秘義務

■評価基準

スクーリング履修：3日目の最終时限に行う筆記試験により、60点以上を合格とする。

実習時における評価を平常点として加味することがある。

■使用教材

所定の学習資料を配布する。

■連絡事項

特になし

専門科目：展開科目Ⅱ群 からだ・保健の理解

科目名	細胞と遺伝子 (2401T, 2401S)	担当教員	菅野 徹 助教授
単位数	3単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

細胞と遺伝子は、生命の根源であり生命として認識できる最小単位でもある。細胞や遺伝子の基本的な構造や機能を知ることによって、生命についてより身近により深く考察できるようにする。また、近年、医学、農畜産学分野での遺伝子工学、細胞工学の発展は著しいものがある。これらが身近な日々の暮らしにどのように関わってくるのかを的確に考察できるようにする。

■科目の内容

細胞と遺伝子を学ぶことは、広く生物学全体の基礎を学ぶことに他ならない。その主な流れは生命科学概論で述べられている。細胞と遺伝子では、その中から細胞の構造と遺伝子についてさらに詳しく学ぶ。

第Ⅰ章 細胞の構造を主として、細胞内小器官がどのような役割を担っているかを学ぶ。また、細胞の機能解析がどのような方法で行われているのかを技術的な視点から学ぶ。

第Ⅱ章 遺伝子の構成分子と遺伝子の遺伝情報の伝達と発現のしくみについて学ぶ。また、遺伝子を抽象的概念ではなく、DNA分子を介した遺伝情報であることを見識るために、遺伝子の解析方法についても学ぶ。

第Ⅲ章 細胞工学、遺伝子工学がどのように実施され、それらが実際の生活や環境にどのように関わってくるのかを学ぶ。また、最も新しいゲノム計画については、その概略と今後の進展見通しについて学ぶ。

細胞と遺伝子の分野では絶えず新しい発見や開発があり、いずれも我々の生活に密接に関わっている。以上を通して、この分野での新しい知識を正確に把握、理解できるようにする。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	細胞の構造、特に細胞内小器官とその機能及びその解析方法について学ぶことによって、生命のしくみについて考察する基礎を習得する。	第Ⅰ章 細胞 図版、インターネット上の図版で視覚的に理解する。
4時限目～6時限目	遺伝子の構成要素と複製・転写・翻訳のセントラルドグマ、解析方法を学ぶことにより、生命と遺伝子の関係を理解する。	第Ⅱ章 遺伝子 図版、インターネット上の図版で視覚的に理解する。
7時限目～8時限目	細胞工学と遺伝子工学にはどのようなものがあるのかを学び、個々人がその是非を判断できる基礎を養う。	第Ⅲ章 細胞工学・遺伝子工学 インターネット上の図版、統計、実際の事例をもとに理解する。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と試験の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：細胞と遺伝子テキスト

インターネット各サイト：細胞、遺伝子、官公庁の各サイトを随時示す。

■連絡事項

人員にもよるが、コンピューター室にて実施。プロジェクター使用。

インターネットサイトを記憶させるためのフロッピーディスクを持参のこと。

生命科学概論テキストを復習しておくこと。細胞と遺伝子テキスト持参のこと。

専門科目：展開科目Ⅱ群 からだ・保健の理解

科目名	身体の構造と機能 (2402T、2402S)	担当教員	浅沼 勝美 教授
単位数	4単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:2単位)		

■教育目標

脊椎動物の中でもっとも進化した人間の構造と機能を正しく理解し、最も健康的な生活を営む事は誰しも望むものである。ヒトの細胞は約60兆あるといわれ、その集合体の組織や器官は夫々特有の構造と機能を持っている。解剖学は人体とそれを構成している器官や組織の形態を追及する学問であり、生理学はその生体がどのように機能しているかを解明する学問である。このテキストでは全てを学ぶ事は出来ないが、両者の関わる系統的な手柄を、臨床医学に関わる点を特に強調しながら学ぶものである。

■科目の内容

- 第Ⅰ章 人体の大要。解剖学的見地からの大まかな呼び名と位置づけを理解し、日本人の体格、男女差などを理解する。
- 第Ⅱ章 人体の構成と区分。細胞・組織・臓器などの配列と機能や複雑な仕組みを学ぶ。
- 第Ⅲ章 身体の支持と機能。骨・関節・筋肉・骨髄などの運動や機能と特徴的病変を学ぶ。
- 第Ⅳ章 循環系。血液とその循環系統の臓器の心臓、血管などの構造と機能を学ぶ。
- 第Ⅴ章 呼吸器系。呼吸に携わる気道・肺・胸膜・縦隔の構造と機能、又、物質代謝も学ぶ。
- 第Ⅵ章 消化器系。口から肛門までの消化管、消化・吸収に携わる唾液腺・肝臓・脾臓について学ぶ。
- 第Ⅶ章 泌尿器系。体内の老廃物は腎臓で濾過され尿として排泄される。腎・尿管・膀胱などについて学び、男女差による周囲臓器の弊害などについても理解する。
- 第Ⅷ章 生殖器系。子孫を殖やし、繁栄させる生殖器と女性の生理、妊娠にも触れる。
- 第Ⅸ章 内分泌系。ホルモン産生臓器である下垂体、甲状腺、副腎などの特徴的機能を中心に学ぶ。
- 第Ⅹ章 神経系。大脳、小脳、脊髄、末梢神経の構造と刺激の応答・伝達の生理を学ぶ。
- 第Ⅺ章 感覚器官系。視覚・味覚・聴覚など体性感覚や内臓感覚についても理解する。

■スクーリングのスケジュール

	ねらい	授業内容
1 日 目	<p>①ヒトの体型、性別の違いによる身体の構造を解剖学的見地から系統的に分類する。また、それに伴う生理的機能を理解する。さらに細胞・組織などの構造と機能、それに携わる骨格などの支持組織などを学ぶ。</p> <p>②血液と循環臓器、ガス交換の呼吸器の構造と機能を学び、一部の疾病との関連を触れる。</p>	<p>人体の大要 人体の構成と区分 身体の支持と機能 循環器系の構造と機能 呼吸器系の構造と機能</p>
2 日 目	食物の消化・吸収に関わる口腔から消化管や肝臓・脾臓。老廃物の濾過と再吸収の腎臓と尿排泄器官。子孫繁栄に必要な男女の生殖器。ホルモンの分泌に携わる内分泌臓器の特徴を学ぶ。	<p>消化器系の構造と機能 泌尿器系の構造と機能 生殖器系の構造と機能 内分泌系の構造と機能</p>
3 日 目	刺激の伝達とその応答する機構に携わる神経系は大脳・末梢神経の複雑な仕組みがある。また、感覚器官である聴覚・味覚・痛覚などの複雑な反応器官の解剖と機能を理解する。	<p>神経系の構造と機能 感覚器の構造と機能</p>

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の时限に実施する試験との総合評価とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：身体の構造と機能テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

専門科目：展開科目Ⅱ群 からだ・保健の理解

科目名	栄養と代謝 (2403T、2403S)	担当教員	玉井 洋一 教授
単位数	3単位 (テキスト履修:2単位、スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

生命機能が健全に遂行され健康が保持されるためには、必要な栄養素を食物として摂取し、それらを代謝してエネルギーを産生するとともに生体構成物質や生理機能発現に必要な物質につくりかえる必要がある。偏った栄養素の摂取は、成長・発育に影響し、また生活習慣病の誘因にもなる。ここでは主要な栄養素の摂取量と体内における代謝について学び、生体における栄養素の意味について理解を深める。

■科目の内容

- 第1章 栄養の意味、および栄養状態の判定法について学ぶ。
- 第2章 エネルギーの意味を理解した上で、エネルギーの所要量とエネルギー産生の概略について学ぶ。
- 第3章 主要な栄養素の消化の形式、消化に関与する物質、および吸収の機構について学ぶ。
- 第4章 糖質が体内で代謝され、エネルギー (ATP) を生成するまでの仕組みを学ぶ。
また、栄養素としての糖質の重要性を理解する。
- 第5章 脂質、とくにトリアシルグリセロールがエネルギー (ATP) を生成するまでの仕組みを理解する。また、不飽和脂肪酸の生理的意義についても言及する。
- 第6章 タンパク質が体内で代謝され、アミノ酸がエネルギー産生機構に組み込まれる代謝反応について学ぶ。また、アミノ酸の栄養価やアミノ酸が生理活性物質に変換される意味についても触れる。
- 第7章 ビタミンは糖質、脂質、タンパク質が体内で代謝される際に化学反応を円滑にすすめる上で必須の物質である。ここでは各種ビタミンについて化学構造と生理機能との関係、摂取必要量、欠乏症などについて学ぶ。
- 第8章 無機質は物質代謝に必要であるだけでなく生体構成物質でもある。ここでは7種の多量元素と9種の微量元素についてその生理作用について学ぶ。
- 第9章 体内で行われる化学反応はすべて水の環境で行われる。またヒトの体重の60%は水である。生命活動発現において水が果たしている役割について学ぶ。

第10章 体内における物質代謝は、物質ごとに独立しているのではなく互いに相関し合っている。また臓器間において物質のやりとりがある。これを理解した上で、食事サイクルと運動時におけるエネルギー産生の制御・調節機構について学ぶ。糖尿病の際の代謝についても触れる。本教科の総まとめである。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～6時限目	栄養素が体内で消化・吸収される機構、エネルギー(ATP)を产生する仕組み、代謝におけるビタミンの役割について学ぶ。	栄養とは何か、エネルギーとは何か、消化と吸収の機構、糖質・脂質・タンパク質の代謝、ビタミンと無機質の生理作用、水の役割
7時限目～8時限目	栄養素の代謝相関と臓器相関、食事サイクルと運動時のエネルギー代謝について学ぶ。	代謝の相関と統合、代謝調節のまとめ

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験で60点以上を合格とする。

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の時間に実施する試験との総合評価とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：栄養と代謝テキスト

参考書：テキストの中に挙げる。

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。なお、本教科を選択する場合は、先に「生命科学概論」を履修しておくことが望ましい。

専門科目：展開科目Ⅱ群 からだ・保健の理解

科目名	脳科学論 (2404T)	担当教員	新井 康允 教授
単位数	2単位 (テキスト履修: 2単位)		

■教育目標

脳は心のハードウェアであり、体の臓器の中で、自然の創り出した最も優れた構造と機能を持った臓器と考えられている。

動物にも意識は存在し、自意識の片鱗は認められるが、人間のような高度な精神活動は見られない。人類の歴史や社会、文化、そして科学も脳の働きが創り出した成果であることを考えると、精神の座である脳のしくみを解明することは人間の本質を説く鍵でもあるわけである。

この科目的目的は脳のしくみを理解するための出発点として、脳科学の基礎知識を整理し、解説することにある。

■科目の内容

テキストは23章からなっており、11章までは脳の構造と機能に関する基礎的な知識を中心に学習する。脳の3次元的構造の理解はテキストだけでは難しいところがあるので、図を書いたり、頭の中に立体構造を描いたりしてみると良い。スクーリングではビデオや模型を用いて脳を3次元的に理解する時間を設けているので、時間が許せば、スクーリングに参加し学習してほしい。

12章以後は、われわれの色々な行動（睡眠、摂食行動、体内時計、性行動、攻撃行動など）に脳がどのように絡んでいるか、内分泌調節などについて学習する。さらに、われわれの心の底に存在する「知、情、意」に関する精神活動の流れを学習する。

最近は医用電子工学の進歩によって、生きているヒトの脳内の働きをリアルタイムで調べることが可能になりつつあり、テキストでも、ものを見たとき脳内でそれがどう認知されるのか、ものを考えるとき脳内のどこで考えるのか、ものを記憶する場合に脳内のどこが、どう働くのかなどについて最近の知見を紹介する。

脳の弱点は後遺症が残ることであり、高齢化社会では痴呆などを中心として大きな問題がある。テキストでも、脳の老化と脳の持つ可塑性の問題を取り上げて学習する。さらに、最近、ヒトの成人の脳内でも神経細胞が細胞分裂して増殖している部分があることが明らかになり、これらの細胞を用いて、失われた脳の機能を修復する可能性がてきた。

テキスト履修では以上のことを中心に行なうが、個人個人には得意、不得意があると思われる所以、テキストを読む場合には、各章の前にある学習目標と章末にあるその章のまとめと復習をはじめに読んでから学習すると良い。もし、難解な章があれ

ば、学習目標とまとめと復習だけを理解できれば（特に1—11章）、とばして次に移って学習を進めてもらいたい。12章以後を読むときに必要なところを読み返せばよいのではないかと思う。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。テキスト課題の問題は勉学の進度を考えて、テキストの前半から主として出題したが、科目修了試験では範囲はテキスト全部である。

■使用教材

教科書：脳科学論テキスト

■連絡事項

分からぬところがあつたら、質問は大いに歓迎します。

専門科目：展開科目Ⅱ群 からだ・保健の理解

科目名	脳科学論 (2405S)	担当教員	新井 康允 教授
単位数	1単位 (スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

我々の精神活動は「知・情・意」の三つの要素を持っていて、常に何かを知り、何かを感じ、何かをしようとしている。そのハードウェアとしての脳の3次元的な構造を理解することがこのスクーリングの目的の一つであり、精神活動の流れが脳内をどのようにになっているかを大まかに理解するのも目的の一つである。また、脳の働きを理解するための例として、次の二つのトピックス「脳の左右差」と「脳の男女差」を選び、これらの問題に焦点を当てて学習する。

■科目の内容

今回のスクーリングは時間が限られているので、前半は脳の構造について講義とビデオや模型などを用いて脳の構造、脳の区分、脳内の主な構造と機能との結びつきを学習する。また、脳内の情報の流れを理解するために、その1例として視覚情報が脳内でどのように認知され、その後どのように処理されるかを考えてみる。
後半は、二つの課題「脳の左右差」と「脳の男女差」について講義と自主学習を交えた問題解決型のディスカッション学習を試みたい。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	脳の構造と機能の理解（講義、ビデオ、模型を併用） 脳内の情報の流れ	脳の区分 主な構造の名称 脳の認知機能
4時限目～6時限目	脳の左右差、脳の性差	言語中枢 lateralization 脳の性分化 アンドロゲン
7時限目～8時限目	脳の左右差、脳の性差	全体討議、質問など

■評価基準

スクーリング履修：出席状況、グループ討議のレポート、スクーリングの最後に行う試験（記述式）の総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：脳科学論テキスト

その他：スクーリング時に配布するプリント

■連絡事項

教科書の「脳の左右差」と「脳の男女差」のところをあらかじめ読んできてほしい。

専門科目：展開科目Ⅱ群 からだ・保健の理解

科目名	自律神経生理学 (2413T)	担当教員	鈴木 はる江 助教授
単位数	2単位 (テキスト履修:2単位)		

■教育目標

自律神経系は、生体が生きていくために最も基本的な、循環、消化、排泄、体温維持などの自律機能を、無意識のうちに常時調節している。随意的制御を受ける体性神経系と対比して、自律神経系は不随意神経系とも呼ばれるが、実際には感情の影響も受けて働くことが出来る。自律神経系には、脳からの指令を内臓に伝える遠心性神経と内臓の状態を脳に伝える求心性神経とがあり、両者の神経が働いて生体の恒常性維持に役立っている。このような自律神経系の構造と働きの特徴を理解する。

■科目の内容

- 第Ⅰ章 身体機能の恒常性維持に役立つ自律神経系：交感神経と副交感神経および内臓求心性神経よりなる自律神経系の構造と働きの特徴、中枢神経系の種々のレベルによる自律神経機能の調節の仕組みについて学ぶ。
- 第Ⅱ章 循環と自律神経：自律神経による心臓と血管の調節、血圧の調節について学ぶ。
- 第Ⅲ章 食物の消化と自律神経：自律神経による唾液分泌、胃運動と胃液分泌、腸の運動と排便調節について学ぶ。
- 第Ⅳ章 尿の排泄と自律神経：膀胱と尿道の働きの自律神経性調節と排尿調節について学ぶ。
- 第Ⅴ章 体温の調節と自律神経：皮膚血管と汗腺の機能の自律神経性調節と体温調節機構を学ぶ。
- 第Ⅵ章 ホルモン・生殖・免疫・呼吸・生体リズムと自律神経：自律神経系とは対比して考えられるホルモン系や免疫系、体性神経系によって調節される呼吸運動の調節にも自律神経が関わっていることを理解する。また種々の生理機能のリズムと自律神経の関係について学ぶ。
- 第Ⅶ章 体性感覚刺激と自律神経機能：皮膚や筋への体性感覚刺激によって自律神経の機能が反射性に調節されることについて学ぶ。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：自律神経生理学テキスト

参考書：自律機能生理学（佐藤昭夫・佐藤優子・五嶋摩理著、金芳堂）

このほかにもテキスト中に参考図書として記載した。

■連絡事項

テキストに記載されている内容の中で、特に太字の項目を充分に学習すると良い。

専門科目：展開科目Ⅱ群 からだ・保健の理解

科目名 (2414S)	自律神経生理学	担当教員 鈴木 はる江 助教授
単位数	1単位 (スクーリング履修:1単位)	

■教育目標

自律神経系は、生体が生きていくために最も基本的な、循環、消化、排泄、体温維持などの自律機能を、無意識のうちに常時調節している。随意的制御を受ける体性神経系と対比して、自律神経系は不随意神経系とも呼ばれるが、実際には感情の影響も受けて働くことが出来る。自律神経系には、脳からの指令を内臓に伝える遠心性神経と内臓の状態を脳に伝える求心性神経とがあり、両者の神経が働いて生体の恒常性維持に役立っている。このような自律神経系の構造と働きの特徴を理解する。

■科目の内容

- 第Ⅰ章 身体機能の恒常性維持に役立つ自律神経系：交感神経、副交感神経、内臓求心性神経よりなる自律神経系の構造と働きの特徴、中枢神経系による自律神経機能の調節の仕組みについて学ぶ。
- 第Ⅱ章 循環と自律神経：自律神経による心臓と血管の調節、血圧の調節について学ぶ。
- 第Ⅲ章 食物の消化と自律神経：自律神経による唾液分泌、胃運動と胃液分泌、腸の運動と排便調節について学ぶ。
- 第Ⅳ章 尿の排泄と自律神経：膀胱と尿道の働きの自律神経性調節と排尿調節について学ぶ。
- 第Ⅴ章 体温の調節と自律神経：皮膚血管と汗腺の機能の自律神経性調節と体温調節機構を学ぶ。
- 第Ⅵ章 ホルモン・生殖・免疫・呼吸・生体リズムと自律神経：自律神経系と対比して考えられるホルモン系や免疫系、体性神経系の支配をうける呼吸運動の調節にも自律神経が関与していることを理解する。種々の生理機能のリズムと自律神経の関係について学ぶ。
- 第Ⅶ章 体性感覚刺激と自律神経機能：皮膚や筋への体性感覚刺激によって自律神経の機能が反射性に調節されることについて学ぶ。

■スクーリングのスケジュール

	ねらい	授業内容
1時間目～3時間目	自律神経系の構造と働きについて、基本的な事柄を学ぶ。	身体機能の恒常性維持に役立つ自律神経系
4時間目～6時間目	自律神経による循環、消化、尿排泄、体温の調節について学ぶ。	循環、消化、尿の排泄、体温調節と自律神経
7時間目～8時間目	ホルモン、生殖、免疫、呼吸機能の調節における自律神経の働き、体性感覚刺激による自律神経機能の調節について学ぶ。	内分泌、生殖、免疫、呼吸機能と自律神経、体性感覚刺激と自律神経

■評価基準

スクーリング履修：講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：自律神経生理学テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

専門科目：展開科目Ⅲ群 文化の理解

科目名	東洋文化論 (2501T)	担当教員	江口 尚純 講師
単位数	2単位 (テキスト履修: 2単位)		

■教育目標

東洋文化を歴史上長く支えてきた中国文化について、特にその思想に焦点を当てて考察する。中国の思想は文学・芸術、また東洋人の言葉や行動と密接に関わっており、東洋人の表現や行動の様式を理解するのにも重要な意味を持っているといえる。本年度は中国の思想の根幹をなす儒家思想と道家思想を中心にそれぞれの思想の特質を究明することを通して、東洋人の思考の様式を考察し、その現代的意義を考える。

■科目的内容

東洋人の価値観を根底で支える二大思想、儒家思想と道家思想について、それぞれの主要な思想家の学説を追いかながら、その特質を理解すると共に、現代に生きる思想としてその意義を考察する。

儒家思想は「人と生きる（共生）」ことを根底に据え、「人間」を「自分と他人の共生を願う道徳的な存在」と理解して、その本来持っている道徳心をいかに回復し發揮させるかということに主眼を置いている。一方、道家思想は「人間」を「自然の一物」と見なし、人間がそれを忘れて善悪・美醜・上下・敵味方などといった人間の知恵に基づく相対的な価値観を形成するから精神が疲弊するのであるとして、それらを捨て「自然」に帰れと主張している。そこには人間の作った相対的価値観に対する強い懷疑心がある。人が社会生活を営む以上、儒家的思考は必要であるが、他人と自分という相対的思考だけでは個人の精神がむしばまれてしまうことは言うまでもない。道家思想には現代病をいやす発想が多く含まれている。中国には古来、こうした二つの思考様式が一個の人間の中で共存してきた。ここにこそ中国の思想の健全性が存しているといえる。

まずはテキストに従って二つの思想の基本的考え方を理解し、テキストに付された「学習のねらい」に示した課題について考察してほしい。テキストには思想の骨格が示されているだけであるので、参考文献に上げた書物を活用して深く考察することが望ましい。なお儒家にしろ道家にしろ本来は中国古代の思想であるので、もとは漢文で書かれている。参考文献には訳文は付されているが、できるだけ自分の力で読みとつてほしい。そのためには『漢文訓読法』というサブテキストを用意している。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：諸子百家（渡辺精一著、小学館）、リーディングガイド

参考書：漢文訓読法（中国古典学会・千円）のほか、参考文献一覧に示した文献

■連絡事項

なお、『漢文訓読法』は、一般の書店では売られていません。購入希望の方は、ハガキに、お名前、住所、電話番号を記入の上、「漢文訓読法購入希望」と明記し、下記の連絡先までお申し込みください。

〒422-8529 静岡市大谷836

静岡大学教育学部 漢文学研究室気付 中国古典学会

専門科目：展開科目Ⅲ群 文化の理解

科目名	西洋文化論 (2502T)	担当教員	大東 俊一 専任講師
単位数	2単位 (テキスト履修: 2単位)		

■教育目標

日本は明治維新以来、西洋の国々を模範として急速に近代化を推進し、西洋のありとあらゆる文化を摂取してきた。西洋文化は世界の隅々にまで浸透し、あたかも普遍的であるかのような観を呈している。どのようにして西洋文化が育成されていったか、その特質とは何かを考えることを目標とする。

■科目の内容

西洋文化の基層を成すと思われるいくつかの特徴的な文化現象を取り上げて考察する。

西洋世界が急速に拡張を始めるのは16、17世紀以後、いわゆる近代以降である。テキストでは西洋世界の中心である西ヨーロッパ（西欧）に焦点をしづり、その成立の歴史から学んでいく。そして、今日の広い意味での西洋文化の基盤を形成したと考えられる文化現象、即ち、ルネサンス、宗教改革、近代市民社会の思想、近代科学などについて学ぶ。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：西洋文化論テキスト

■連絡事項

特になし

専門科目：展開科目Ⅲ群 文化の理解

科目名	西洋文化論 (2503S)	担当教員	大東 傑一 専任講師
単位数	1単位 (スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

現在、世界の隅々にまで浸透し、あたかも普遍的であるかのような観を呈している西洋文化も、その基礎は16、17世紀に築かれたにすぎない。西洋文化がどのように形成されてきたかを考察する。

■科目の内容

近代の西洋文化の特質とその源流について学ぶ。とりわけ西洋的な思考様式に焦点を当てて、古代ギリシャ・ローマ、中世へと系譜をたどるとともに、近代において西洋世界を強力なものにならしめた諸思想について考察する。また、芸術などの分野における西洋的な特徴についても考えてみたい。

2001年度
開講科目講義要項

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	西洋文化の源流について学ぶ	古代ギリシャ・ローマ ルネサンス
4時限目～6時限目	近代の西洋文化の特質について学ぶ	近代思想 近代科学
7時限目～8時限目	同上	同上

専門科目

■評価基準

スクーリング履修：出席状況と試験による総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：西洋文化論テキスト

■連絡事項

特になし

専門科目：展開科目Ⅲ群 文化の理解

科目名	日本文化論 (2504T)	担当教員	エリス 俊子 講師
単位数	2単位 (テキスト履修:2単位)		

■教育目標

「日本文化」とは何か。一見、あまりにも当たり前で問うまでもないように思われるこの概念は、「日本」なる共同体のアイデンティティーの構築に寄与する一方で、日本の外に向けては他者を圧し、また日本内部においては異質性を排除する論理として働いてきた側面もあることを忘れてはならない。とりわけ「グローバリゼーション」、「国際化」といったことばが飛び交う現代において、「日本」「日本人」「日本文化」などの用語がどのように使われてきたか、そして私たちがそれを現在どのように認識しているかについて考えてみることは重要だろう。本教科目を通じて、グローバルな共同体の一員としての自己の語り方について考える契機を得ることができればと願う。

■科目的内容

今回の「日本文化論」では、文学テクストの検証を中心に、「日本文化」という概念の形成および運用について多角的に考える。文学テクストの検証が中心となるが、文学そのものへの関心や日本文学に関する特定の知識を要求するものではない。「日本文化」について考える材料として文学素材を扱うものであり、文学になじみのない人も本教科目の履修を通じて、和歌や俳句や近代詩にふれて、多少でも楽しんでもらえればと思う。

- 第一章 「日本文化」の概念がいつ、どのようにして形成されたかについて考える。さらに、1960年以降、次々と出版された「日本人論」と呼ばれてきた一連の著作がどのような言説的特徴をもっているかを検証する。
- 第二章 日本詩歌の展開を歴史的に俯瞰し、「日本文化」なるものの伝統創出のメカニズムについて考える。とくに、和歌の伝統によって強化されていった自然観の特徴をさぐる。
- 第三章 江戸期以降に栄えた俳句というジャンルを中心に、文学の世界性という問題について考察する。俳句を英訳するとどういうことになるか、また、英語で俳句を読んだときに生まれる新しい解釈の仕方などについて、具体的に作品を読み解きながら検討する。
- 第四章 日本文化における「近代」の意味について総合的に考える。前半では萩原朔太郎の詩を中心に、後半では村上春樹の小説を中心に分析を進める。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：日本文化論テキスト

■連絡事項

特になし

専門科目：展開科目Ⅲ群 文化の理解

科目名	日本文化論 (2505S)	担当教員	エリス 俊子 講師
単位数	1単位 (スクーリング履修:1単位)		

■教育目標

「日本文化」とは何か。一見、あまりにも当たり前で間うまでもないように思われるこの概念は、「日本」なる共同体のアイデンティティーの構築に寄与する一方で、日本の外に向けては他者を圧し、また日本内部においては異質性を排除する論理として働いてきた側面もあることを忘れてはならない。とりわけ「グローバリゼーション」、「国際化」といったことばが飛び交う現代において、「日本」「日本人」「日本文化」などの用語がどのように使われてきたか、そして私たちがそれを現在どのように認識しているかについて考えてみることは重要だろう。本教科目を通じて、グローバルな共同体の一員としての自己の語り方について考える契機を得ることができればと願う。

■科目的内容

今回の「日本文化論」では、文学テクストの検証を中心に、「日本文化」という概念の形成および運用について多角的に考える。文学テクストの検証が中心となるが、文学そのものへの関心や日本文学に関する特定の知識を要求するものではない。「日本文化」について考える材料として文学素材を扱うものであり、文学になじみのない人も本教科目の履修を通じて、和歌や俳句や近代詩にふれて、多少でも楽しんでもらえればと思う。

第一章 「日本文化」の概念がいつ、どのようにして形成されたかについて考える。さらに、1960年以降、次々と出版された「日本人論」と呼ばれてきた一連の著作がどのような言説的特徴をもっているかを検証する。

第二章 日本詩歌の展開を歴史的に俯瞰し、「日本文化」なるものの伝統創出のメカニズムについて考える。とくに、和歌の伝統によって強化されていった自然観の特徴をさぐる。

第三章 江戸期以降に栄えた俳句というジャンルを中心に、文学の世界性という問題について考察する。俳句を英訳するとどういうことになるか、また、英語で俳句を読んだときに生まれる新しい解釈の仕方などについて、具体的に作品を読み解きながら検討する。

第四章 日本文化における「近代」の意味について総合的に考える。前半では萩原朔太郎の詩を中心に、後半では村上春樹の小説を中心に分析を進める。

■スクーリングのスケジュール

	ね ら い	授 業 内 容
1時限目～3時限目	「日本文化」の概念について多角的に検討する。それぞれの「日本文化」観についても提示してもらい、みんなで考えていきたいと思う。	教科書第一章を参照
4時限目～6時限目	和歌や俳句の伝統の形成について議論する。具体的な作品分析を中心で授業を進める。	教科書第二章～第三章を参照
7時限目～8時限目	日本における「近代」の意味および、現代の文化状況について考察する。	教科書第四章を参照。最後の時限に試験を行う。

■評価基準

スクーリング履修：講義の出席、参加状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：日本文化論テキスト

■連絡事項

スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。

受講条件ではないが、最後の時限でとりあげる村上春樹の『羊をめぐる冒険』を事前に読んでおくと、講義内容への関心が高まるかと思う。

専門科目：展開科目Ⅲ群 文化の理解

科目名	言語関係論 (2507T)	担当教員	川口 裕司 講師
単位数	2単位 (テキスト履修: 2単位)		

■教育目標

言語のさまざまな関係性（ネットワーク）を言語学的な立場から考察する場合の基本的な概念とその定義を学ぶ。

■科目的内容

まず最初に、言語記号の特徴を学ぶ。

次に言語のさまざまなネットワークを以下の3つのカテゴリーに分けて考える。

1. 言語内的なネットワーク
2. 言語間のネットワーク
3. 言語と言語外現実のネットワーク

この3つの関係性は、それぞれが言語学の多様な分野を形成しており、そうした分野における実際の分析例を解説する。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：言語学への開かれた扉（千野栄一、三省堂）、言語関係論テキスト

■連絡事項

受講に際して特定の外国語の知識は必要ではない。

専門科目：展開科目Ⅲ群 文化の理解

科目名	文化人類学 (2512T)	担当教員	鈴木 洋一 講師
単位数	4単位 (テキスト履修: 4単位)		

■教育目標

本講義の目標は、世界各地の諸民族の生活様式（文化）を比較研究し、現下の国際化の中での文化交流や文化摩擦解消に役立つ素養を身につけることである。

■科目的内容

文化人類学は「比較」の学問である。時間的にも空間的にもすべての人類を研究することによって、ヒトの生き方の多様性・可能性と、ヒトの宿命・必然性の両面について適切な認識を得ようと努めている。とりわけ、原始・未開とされる社会の生活様式を調査・研究することによって、現代文明が自明としている価値観（人間観、世界観）をいったん離れて、自己省察を自論もうとする。つまり、普段どっぷりつかっている生活意識や生活感情に対して一步距離を置くことで、逆に見えてくるものがあるはずだと考える。異民族・異文化について勉強すればするほど、その「見えてくるもの」は質量ともに増えるであろう。交通機関や通信手段の発達によって地球は狭くなりつつあるといわれるが、自らを相対化しうるに足るだけの民族誌の豊かさがある限り、地球はまだまだ広いといってよいだろう。

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：文化人類学がわかる事典（木山英明著、日本実業出版社）、リーディングガイド

■連絡事項

未開民族探検、異文化紀行などを扱った書物や映像にも積極的に親しんでいただきたい。

専門科目：展開科目Ⅲ群 文化の理解

科目名 (2513T)	思想史	担当教員	宇佐美 正利 講師
単位数	2単位（テキスト履修：2単位）		

■教育目標

仏教伝来から平安時代の浄土教の発達までの、日本古代仏教の実態について学ぶ。

■科目の内容

日本の思想について多くの影響を与えた仏教について、その伝来から平安時代までを学ぶ。古代仏教には、古代国家の保護を受けて発達した国家仏教としての側面と、地方・民衆に流布した民間仏教としての側面とがあった。本講座では、国家仏教・民間仏教との両面について考える。具体的には、以下のテーマを学ぶ。

1. 仏教伝来
2. 奈良仏教と貴族
3. 平安仏教の成立
4. 「日本靈異記」の世界
5. 浄土の世界

■評価基準

テキスト履修：科目修了試験にて60点以上を合格とする。

■使用教材

教科書：日本思想史テキスト

■連絡事項

テキストに引用されている史料について、積極的にそれぞれ調べるように。

5. 2002年度以降の開講科目概要

教養科目	109
生活と福祉	109
人間の探究	109
人間の健康	109
専門科目	111
展開科目Ⅰ群（こころ・精神の理解）	111
展開科目Ⅱ群（からだ・保健の理解）	112
展開科目Ⅲ群（文化の理解）	114
卒業研究	115

5. 2002年度以降の開講科目概要

教養科目

生活と福祉

●高齢化社会と福祉・医療 (2002年度開講: テキスト4単位)

担当教員: 中村 健一 教授

「高齢社会」の到来を目前にして、高齢者の医療・介護・福祉対策について種々の提案がなされているが、どこの国も未経験のことだけに「お手本」は存在しない。高齢者の生活・健康の実態や現行制度の問題点などを探しながら、保護と自立促進の適切なバランスの上に立つ望ましい将来像を、学生諸兄姉とともに考えて行きたい。

人間の探究

●日本語の諸相 (2002年度開講: テキスト4単位)

担当教員: 林 謙太郎 講師

日本語について、①音声・音韻、②語彙・意味、③文法・文体、④文字・表記、⑤言語生活、⑥歴史などの諸側面から検討し、その全体像を探る。また、日本語と外国語との比較や外国人に日本語を教える方法を通して、無意識に使っている日本語のしくみを考える。

●現代の英文学 (2002年度開講: テキスト2単位およびスクーリング2単位)

担当教員: 間崎 理音 教授

英文学作品を通して同時代の英語圏の人々の人間観・世界観に親しみ、国家・人種・言語という壁を越えて、人間としての共感を持つことによって、国際的な視野を持つことを目指す。作品としては、たとえば、ノーベル賞作家で、ユダヤ系アメリカ人のソール・ベローを取り上げる。

人間の健康

●スポーツと健康 (2002年度開講: テキスト2単位)

担当教員: 塚本 行男 講師

われわれがスポーツを行う目的はさまざまであるが、肉体的にも精神的にも健康な肉体を保持するためにはスポーツ(運動)は欠かせない。ここでは、スポーツが及ぼす生理機能への影響を中心に、栄養、適性、疲労、練習方法などを学びつつ、病気とその予防についても言及する。

●公害と環境問題 (2002年度開講：テキスト4単位)

担当教員：苅部 ひとみ 教授

いまや地球規模に発展・拡大している公害・環境破壊問題。その責任は、もはや一部の企業や政府の責任にとどまらず、私たち一人一人が自ら問い直す時期にきているといえる。どのようにして環境破壊を食い止め、公害から地球環境を守るべきか、社会環境に目を向け、日常生活の意味を考察する。

展開科目Ⅰ群（こころ・精神の理解）

●心身医学（2002年度開講：テキスト2単位またはスクーリング1単位）

担当教員：筒井 末春 教授

心と身体の密接な関連性を重視し、心身両面から総合的にアプローチする心身医学は、臨床医学の基幹となる学問分野である。健康維持や生命（生活）の質向上する上でメンタルヘルスやメンタル・ケアの重要性を学ぶとともに、自律神経・内分泌・免疫系の関与といった内部環境から、心理社会的ストレッサーや性格要因といった外部環境まで幅広い視野から心と体のつながりを学習する。

●死生論（2002年度開講：テキスト2単位）

担当教員：坪井 康次 講師

患者の死ぬ権利や安楽死が問題となっている現代において「生」の対極にある「死」をどのようにとらえ、どのようにして死を受け入れていったらよいかを学ぶ。人間がどのように死を受けとめてきたか、主観的な死と客観的な死の違いなど、内外での死生観の歴史や系譜を概観する。また、死を受容するにあたって、死の準備教育の必要性とグリーフ・セラピーのあり方およびその方法を学ぶ。

●精神分析（交流分析）（2002年度開講：テキスト2単位またはスクーリング1単位）

担当教員：島田 凉子 助教授

精神分析を基盤とし、精神的自立に役立つための実効ある心理療法の理論として発展した交流分析。交流分析における、人間の心の構造および機能の分析、他者との交流の分析、幼児期の体験に基づいて決断される個人の人生観（脚本）の分析、およびこれらすべての理論を統合した方法論として、主体の自然な欲求のパワーを現実的で肯定的な方向に活かすための脚本の書き換え（再決断）について学ぶ。

●現代家族論（2002年度開講：テキスト2単位）

担当教員：島田 凉子 助教授

家族形態の多様化が進む現代社会における、「家族」のもつ意味を、個人の自己実現の過程にとっての役割という視点から考える。家族のシステムと個人の行動パターンの関連性を検討することにより、より満足な生活を送るために主体が選べる行動の可能性や、精神の「自律性」の意味と内容を考える。

●心の防衛機制と反応 (2002年度開講：テキスト2単位)

担当教員：佐々 好子 講師

無意識のうちに行われるこころの動きを理解する基礎理論として精神力動論に立脚し、自我の防衛機制とこころの反応について学ぶ。この過程を通して現実場面で個人あるいは対人関係の中に生じる様々なこころの現象を捉える上での考え方や感性を養うこと主眼を置く。

●生命倫理学 (2002年度開講：テキスト2単位)

担当教員：米本 昌平 講師

遺伝子操作、生殖医療など生命科学、医学の技術進歩に伴う、現代の直面している社会的問題や環境と人との関係を題材としてその意味を探求する。複雑化している状況の中での「生命」のある場、あり方、それを巡る人々の思索や行動、社会の動勢を学ぶことで各人の持つ生命観を深めていくための礎とすることを重視する。

展開科目Ⅱ群（からだ・保健の理解）

●病気の成り立ち (2002年度開講：テキスト2単位またはスクーリング1単位)

担当教員：浅沼 勝美 教授

人間は誰もが健康で天寿を完うすることを願うが、人生は常に病気と背中合わせである。ここでは、病気とは何か、健康と病気の違い、病気が起こるメカニズム、症状と病気の関係などについて理解する。病気が起こる仕組みを正しく理解し、病気の予防に対する適切な心構えや病気に立ち向かう姿勢の獲得を目指す。

●臨床薬学 (2002度開講：テキスト2単位)

担当教員：朝長 文弥 講師

くすりは、病気の治療、予防、診断に役立つ化学物質である。このくすりをいかに体に適正に使用できるかの基本的概念を学ぶ。くすりの役割は何か。投与経路、剤型によるくすりの効き方の違い、くすりの注意すべき副作用、高齢者、妊婦、小児への薬物投与の問題点などを理解する。また、くすりが体内に吸収された後の分布、代謝、排出、血中濃度など、くすりの動態についても学ぶ。

●保健学 (2002年度開講：テキスト2単位)

担当教員：中村 健一 教授

健康の形成・増進のための保健活動は、各人の努力と国・地方自治体・各種民間団

体の組織的支援が適切に結合して、はじめて円滑に行われる。本科目では、健康の概念、保健衛生の歴史、健康を規定する条件、保健統計、疫学などの基礎的理解の上に立ち、具体的な保健プログラムの現状と理想像、個人としての実践方法などについて学ぶ。

●女性のからだと健康 (2002年度開講: テキスト2単位)

担当教員: 佐藤 優子 教授

女性のからだは思春期に大きく変化し、月経が始まり、妊娠・出産・授乳の経験をするなどして閉経に至る。女性が社会で活躍し、女性の生き方が多様化する時代の中で、女性のからだを正しく理解し、心身共に健康な女性の生き方を考える。

●高齢者のからだと健康 (2002年度開講: テキスト2単位)

担当教員: 佐藤 昭夫 教授

長寿社会の実現しつつある現代において、単なる長生きを願うだけでなく、精神的にも身体的にも健康で充実した人生を全うすることが求められている。高齢者の精神的、身体的特徴を学び、健やかに老いることを考える。

●伝承医学 (2002年度開講: テキスト2単位)

担当教員: 矢野 忠 講師

西洋医学の著しい進歩、発展にもかかわらず、伝承医学あるいは古代医学は、現在でも世界各地で実践されている。ここでは一般に東洋医学と呼ばれている中国医学を中心に、その他のアジア諸国の伝承医学について、その理論と応用を学ぶとともに、伝承医学的観点から人間を理解する。

●運動生理学 (2002年度開講: テキスト2単位またはスクーリング1単位)

担当教員: 鈴木 はる江 助教授

身体運動には体を支える骨格、骨格を動かす筋肉、筋肉の収縮を調節する神経系の働きが必要である。運動時には循環・呼吸・代謝などの全身の人体運動も適切に調節される。運動に関わる身体の諸機能について理解し、健康的な体力づくりを考える。

●環境とホルモン (2002年度開講: テキスト2単位)

担当教員: 新井 康允 教授

地球上の全ての生物は、地球の自転の周期である24時間周期に適応して生活してい

る。人間には、脳内に体内時計があり、また体内には外界の環境要因に細かく適用するシステムがあるが、環境汚染が進みつつある中で、人間の脳と内分泌系を攪乱するホルモン様物質（環境ホルモン）がいま問題となっている。このコースでは地球環境からの情報によって生きてきた人間が、人間自身が地球環境を壊さないようにするにはどうすればよいかを多面的に考察する。

展開科目Ⅲ群（文化の理解）

●言語文化論（2002年度開講：テキスト2単位およびスクーリング2単位）

担当教員：濱田 明 教授

言語は人間特有のものであり、その言語活動において生まれ育った人類の貴重で代表的な文化は〈文学〉である。さまざまな文学作品や文学活動を通して「人間が言葉を獲得したことと人間社会や精神活動との関係」「文化や文学のあり方と社会との関係」などといった事柄を検討し、「人間」と「社会と文化」、「個人としての人間」とは何なのかについて考える。

●国際関係論（2002年度開講：テキスト2単位またはスクーリング1単位）

担当教員：山田 侑平 専任講師

冷戦は終わったというものの、世界いたるところで紛争は絶えず、宗教や文化を異にする国々や人々の間の対立が続いている。国際関係に関する古典的な著作に学びながら、現代世界を見る視点を自分なりに構築することを試みる。E・H・カーの『危機の二十年』をその道案内にする。

●現代市場論（2002年度開講：テキスト2単位またはスクーリング1単位）

担当教員：岡安 克之 教授

現代社会は自由競争と市場原理を根底にしたさまざまな市場から構成されている。中でも金融証券市場はフリー、グローバル、フェアというビッグバンにより、大きく変革しつつあり、金融証券市場を研究することは現代社会を動かすメカニズムを解明することにつながる。本講では、金融証券市場のもつ機能、役割、影響力について学ぶ。

●比較藝術論 (2002年度開講：テキスト2単位)

担当教員：村田 宏 講師

本講義は、地域や国の枠にとらわれずに、東西あるいは古今の様々な藝術現象を取り上げ、より豊かでより深い藝術鑑賞と理解を目指し、最終的には、世界的な藝術的、審美的な視座の獲得を目標とする。

卒業研究

●卒業研究 (2003年度開講)

担当教員：全専任教員

正しい判断力や価値観、倫理観など、いわゆる問題解決のための「自己決定」の能力の育成を目的とする。

これまで人間を「心理的側面」「身体的側面」「文化的側面」の3領域から探究した中で、1つの領域を核とし、残り2領域を融合させ、指導教員から一貫指導を受けながら、卒業研究をまとめる。

6. 専任教員紹介

《氏名》	肩書き	①担当科目 ④主な著書 ②学歴 ⑤所属学会 ③主な経歴
坂上 正道 Masamichi Sakanoue	学長	②慶應義塾大学医学部（医学博士） ③北里大学医学部病院倫理委員会委員、北里大学名誉教授、日本医師会参与 ④『生命的尊厳』（共著、東大図書公司）、『SIDSの手引』（監著、東京医学社）、『在宅ケアとリビング・ウィル』（共著、日本評論社）、『人間性の医学』（共著、名古屋大学出版社） ⑤日本新生児未熟児学会名誉会員、日本新生児学会会員、日本小児科学会会員
佐藤 昭夫 Aki o Sato	教授 学部長	①人間科学概論、高齢者のからだと健康 ②北海道大学医学部（医学博士） ③東京都老人総合研究所副所長、昭和大学医学部客員教授、お茶の水女子大学大学院生活システム科学講座客員教授 ④『新生理科学体系 第20巻 内分泌・自律機能調節の生理学』（編著医学書院）、『生理学』（共著、医薬学出版）他多数 ⑤日本基礎老学会理事、日本自律神経学会理事など
筒井 末春 Sueharu Tsutsui	I群責任教授	①行動科学概論、心身医学 ②東邦大学医学部（医学博士） ③東邦大学名誉教授 ④『ストレス状態と心身医学的アプローチ』（診断と治療社）、『心療内科における薬物療法－変遷と展望－』（新興医学出版）他多数 ⑤日本自律神経学会理事、日本ストレス学会理事、日本思春期学会理事、日本心療内科学会常任理事、日本心身医学会評議員など
玉井 洋一 Yoichi Tamai	II群責任教授	①生命科学概論、栄養と代謝 ②東京医科大学大学院医学研究科博士課程神経精神医学専攻（医学博士） ③北里大学医学部教授、北里大学大学院医学研究科・医療系研究科教授、医学部・病院倫理委員会委員長、トロント大学客員教授 ④『症例から学ぶ生化学』（共著、東京化学同人）ほか ⑤日本生化学会評議員、日本神経化学会評議員、日本脂質生化学会幹事

《氏名》	肩書き	①担当科目 ②学歴 ③主な経歴 ④主な著書 ⑤所属学会
濱田 明 Akira Hamada	Ⅲ群責任教授	①表現科学概論、言語文化論 ②京都大学大学院文学研究科博士課程（文学修士） ③成城大学文芸学部助教授、静岡大学人文学部教授、同言語文化学科学科長 ④『ロブ＝グリエの小説美学』（牧神社）、『トリスタン・ツアラの夢の詩学』（思潮社）、『モダニズム研究』（共著、思潮社） ⑤日本フランス語フランス文学会など
浅沼 勝美 Katsumi Asanuma	教 授	①生活習慣と健康、身体の構造と機能、病気の成り立ち ②昭和医科大学（医学博士） ③東洋医科大学（現 聖マリアンナ医科大学）第二病理学助教授、国保松戸市立病院中央検査局長兼副院長、昭和大学医学部客員教授、早稲田医療専門学校非常勤講師 ⑤昭和大学医学会評議員、日本病理学会評議員、日本新生児学会功労会員
新井 康允 Yasumasa Arai	教 授	①脳科学論、環境とホルモン ②東京大学大学院生物系博士課程（理学博士） ③順天堂大学名誉教授、放送大学客員教授 ④『ここまでわかった！女の脳、男の脳』（講談社）、『脳のしくみ』（日本実業出版社）、『脳の性差—男と女の心をさぐる』（共立出版）他多数 ⑤国際神経内分泌学会理事、日本神経学会理事、日本内分泌学会功労評議員、ニューヨーク科学アカデミー会員など
岡安 克之 Katsuyuki Okayasu	教 授	①現代市場論 ②慶應義塾大学法学部法律学科 ③山一證券株式会社、社団法人金融財政事情研究会・きんざい通信教育主任指導員、日本FP協会運営委員、金融証券リサーチ顧問、NPO事業サポートセンター監事 ④『債券先物・オプション取引』（社団法人金融財政事情研究会）、『銀行取引法務事例集』（銀行研究社）、『特別会員証券外務員資格試験対策問題集』（BSIエデュケーション社） ⑤証券経済学会、日本FP学会

《氏名》	肩書き	①担当科目 ④主な著書 ②学歴 ⑤所属学会 ③主な経歴
苅部 ひとみ Hitomi Karube	教 授	①住まいと環境、公害と環境問題 ②北里大学医学部（医学博士） ③北里大学医学部助教授 ④『健康と元素—その基礎知識—』（共著、南山堂）、 『職場のメンタルヘルス・ケア』（共著、南山堂） ⑤日本産業衛生学会評議員、日本内科学会、日本 肝臓学会、日本カウンセリング学会など
佐藤 優子 Yuko Sato	教 授	①人間科学論、女性のからだと健康 ②北海道大学理学部化学科（医学博士） ③筑波技術短期大学視覚部鍼灸学科教授（生理学） ④『自律神経生理学』（共著、金芳堂）、『生理学』 （共著、医薬出版社）、『ストレスのしくみと積極的 的対応』（藤田企画出版）、『化粧心理学』（フレ グランスジャーナル社） ⑤日本生理学会評議員、日本基礎老化学会評議員、日本 自律神経学会評議員、日本神経科学会専門委員など
中村 健一 Kenichi Nakamura	教 授	①高齢化社会と福祉・医療、保健学 ②慶應義塾大学医学部医学科（医学博士） ③北里大学医学部助教授、高知医科大学医学部教 授、防衛医科大学校医学教育部教授、昭和大学 医学部教授 ④『医療科学』（共著、医学書院）、『疫学ハンドブ ック—重要疾患の疫学と予防—』（共著、南江堂）、 『産業医実践ガイド』（共著、文光堂）他多数 ⑤日本産業精神保健学会監事、健康開発科学会理 事、日本衛生学会評議員
飯田 静夫 Shizuo Handa	教 授	①健康科学論 ②千葉大学医学部、東京大学大学院博士課程（医 学博士） ③東京大学医学部助教授、東京医科歯科大学名誉 教授、医療法人博道会館山病院医師 ④『鍵鎖と生命』（共著、東京化学同人）他 ⑤日本生化学会評議員、日本脂質生化学研究会名 誉会員

〈氏名〉	肩書き	①担当科目 ②学歴 ③主な経験 ④主な著書 ⑤所属学会
間崎 理音 Masato Masaki	教授	①現代の英文学、英語Ⅱ ②慶應義塾大学文学部英米文学科、中央大学大学院文学研究科博士課程前期課程（文学修士） ③高岡法科大学法学部教授 ⑤日本英文学会、国際ソール・ベロー協会、日本アメリカ文学会など
今崎 牧生 Makio Imasaki	助教授	①卒業研究指導 ②島根医科大学医学部（医学博士） ③東邦大学医学部心身医学講座研究生 ④『心身症ハンドブック』（共著、ヴァンメディカル）、『抗不安薬の新しい展開』（共著、医薬ジャーナル社）『標準音楽療法入門 上 理論編』（共著、春秋社）、『産業精神保健ハンドブック』（共著、中山書店） ⑤日本心身医学会評議員、日本ストレス学会
佐伯 雅子 Masako Saeki	助教授	①中世の日本文学、漢文学の世界 ②聖心女子大学大学院文学研究科修士課程（文学修士） ③聖心女子大学研究生、東京福祉専門学校児童福祉科講師、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科講師 ④『校本 本朝韻藻附索引』（共著、汲古書院） ⑤説話文学会、全国大学国語国文学会、中古文学会、日本文学協会、和漢比較文化学会など
島田 涼子 Ryoko Shimada	助教授	①人間関係論、精神分析（交流分析）、現代家族論 ②東京女子大学大学院文学研究科哲学専攻修士課程（文学修士） ③医学英語翻訳者、東邦大学心療内科非常勤研究生、青山心理臨床教育センターカウンセラー ④『フロイトの書き方』（共訳、誠信書房）、『QOL』（共訳、シュプリンガー・フェアラーク東京） ⑤日本交流分析学会、日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本思春期学会、日本心身医学会、国際TA（交流分析）協会

《氏名》	肩書き	①担当科目 ④主な著書 ②学歴 ⑤所属学会 ③主な経歴
菅野 徹 Toru Sugano	助教授	<p>①細胞と遺伝子 ②北海道大学農学部農業生物学科、大阪大学医学部医学研究科修士課程（医学博士） ③帝人株式会社 帝人生物医学研究所化学研究部、同研究所薬理研究部、帝人株式会社医薬第2開発部 ④Development of human monoclonal Antibody against Cytomegalovirus with the Aim of a Passive Immunotherapy (共著、Stockton Press, New York) ⑤日本ウイルス学会、臨床ウイルス学会</p>
鈴木 はる江 Harue Suzuki	助教授	<p>①自律神経生理学、運動生理学 ②北海道大学理学部生物学科（医学博士） ③帝京大学医学部非常勤講師、早稲田医療専門学校非常勤講師、筑波技術短期大学非常勤講師、東京都老人総合研究所研究員 ④『脳・神経系のエイジング』(共著、朝倉書店)、『全面改訂・自律神経の基礎と臨床』(共著、医薬ジャーナル社) ⑤日本生理学会評議員、日本自律神経学会</p>
中野 博子 Hiroko Nakano	助教授	<p>①発達心理学、青年期心理学、カウンセリング論 ②東京女子大学文理学部心理学科、お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程（文学修士） ③東京衛生学園専門学校看護科講師、昭和女子大学学生相談室カウンセラー、東邦大学心療内科、横浜相原病院臨床心理士 ④『標準音楽療法入門 理論編』(共著、春秋社) ⑤日本心身医学会代議員、日本心理臨床学会、日本ストレス学会、日本思春期学会</p>

〈氏名〉	肩書き	①担当科目 ④主な著書 ②学歴 ⑤所属学会 ③主な経験
大東 俊一 Syunichi Daito	専任講師	<p>①英語I、比較文化論、西洋文化論</p> <p>②東京外国语大学大学院地域研究科修士課程（国際学修士）、法政大学大学院人文科学研究科博士後期課程（文学修士）</p> <p>③法政大学第一教養部、拓殖大学政経学部、専修大学経済学部、法政大学第二教養部、法政大学人間環境学部において非常勤講師（英語、哲学・論理学担当）</p> <p>④『九鬼周造と日本文化論』（梓出版社）</p> <p>⑤英米文化学会評議員、比較思想学会、日本哲学会、日本倫理学会、八雲会など</p>
野田 重雄 Shigeo Noda	専任講師	<p>①カウンセリング実践</p> <p>②防衛大学校</p> <p>③防衛大学校教授、防衛研究所研究員、拓殖大学政経学部講師</p> <p>④『大学における学生部活動の理論と実際』（共著、拓殖大学学生部）、『総合的カウンセリングへの学習と実践』（共著、不味堂出版）</p> <p>⑤日本進路指導学会</p>
山田 侑平 Yuhei Yamada	専任講師	<p>①日本の国際化、国際関係論</p> <p>②東京外国语大学中国語科</p> <p>③通信記者として国際ニュースの取材・編集にあたる。ロサンゼルス、ニューヨーク、ブリュッセルに駐在し、米国の社会・経済、国連、ヨーロッパ連合（EU）、北大西洋条約機構（NATO）などを取材。法政大学文学部非常勤講師</p> <p>④『時事英語情報事典』（共著、研究者）、『スヌーピーの英語辞典』（角川書店）</p> <p>⑤日本EU学会</p>